

「高校生のための学びの基礎診断」への申請について

2018年 6月 27日

①事業者名	株式会社ベネッセコーポレーション					
②測定ツール名	スタディープログラム ※2019年度より新規提供					
③主な対象者	主に、四年制大学・短期大学等への進学を希望する高校1年生・2年生 ※特に、高等学校教科書例題レベルの基礎学力定着を確実にしたい高等学校					
④対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の区分	基本タイプ	標準タイプ
	○	○	○			○
⑥申請する測定ツールの目的・概要	【目的】 高等学校履修範囲における国語・数学・英語の基礎学力の定着を目的とした教材で、日常的な学習習慣づくりと基礎学力の定着を支援する学習・指導ツールと診断ツールを一体的に提供します。 【概要】 「スタディープログラム」は、学習ツール（分野・単元毎の学習教材、学習動画）と診断ツールが一体となった教材です。学習ツールとしては、国語・数学・英語の基本的な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の習得を確実にするため、分野・単元別の学習教材と学習動画を提供します。診断ツールとしては、国語・数学・英語それぞれ既習範囲の分野・単元の学習定着度を測定するため、年間3回の実施期間毎に進度に応じた出題範囲・内容で測定を行います。また、学習状況調査で受検者の学習状況を診断します。					
⑦申請する測定ツールの特長・活用例等	【特長】 学習ツール（分野・単元毎の学習教材、学習動画）は、各教科の系統表に基づいて教材を設計しており、授業進度にあわせて体系的に基礎学力の定着を促します。また、付属する学習動画により、受検者自身による自学自習をサポートします。 診断ツールは、年間3回の実施期間があり、各回で出題範囲・内容が異なります。国語・数学・英語の出題は、マーク式問題と記述式問題をあわせた構成で、それぞれ既習範囲の分野・単元から網羅的に出題をすることで、学力定着度を測定します。また、学習状況調査により日常での学習の取り組み度を診断します。 年度毎の新作問題ではなく、同一問題を毎年出題することで、学年間の経年比較などが行えます。これにより、学年・クラス等の集団における学習状況・つまづき把握を指導改善につなげることができます。診断結果は段階別評価で提供することで、受検者自身が学習の積み上がり具合を確認できます。また、個人・学年単位の苦手分野・単元の診断結果とあわせて提示する学習ツール（学習教材、学習動画）を学習改善・指導改善に役立てることができます。これによりPDCAサイクルの構築に繋げることができます。 【活用例】 授業進度に応じて、分野・単元の導入やまとめのタイミングでの理解度の確認に学習教材を活用できます。授業時間内での活用のほか予習・復習や課題としても活用できます。特に分野・単元の導入では、これからの学習事項のつまづき要因となりやすい既習範囲の振り返りに役立てられます。また、診断ツールを年間最大3回実施し、学力と学習の観点で現状や変容の定点観測を行い、診断結果を指導改善や指導計画へ反映することができます。					
⑧実施期間、年間実施回数	実施期間：第1回（3月-5月）、第2回（8月-10月）、第3回（12月-1月） 申込時期：2019年2月申込受付開始予定、2019年3月実施開始予定 ※出題内容は各回で異なるため、年間3回までの受検が可能。					
⑨実施方式 (CBT/PBT)	すべてPBTで実施					
⑩試験時間	国語		数学		英語	
	マーク式・記述式問題：50分		マーク式・記述式問題：50分 ※2年生第2回と2年生第3回の数学は 50分コース・100分コースから選択		マーク式・記述式問題：50分 (リーディング・ライティング・リスニング) 学校採点のスピーキング問題：5分	
⑪受検料	¥6,000円 ※消費税等込 ※「スタディープログラム」年間利用料として、診断3回までの受検を含む。					
⑫標準返却期間	1回目：マーク式結果＝解答用紙到着後、約2週間で返却（紙） 2回目：マーク式と記述式をあわせた結果＝解答用紙到着後、約1か月で返却（データ）					
⑬URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	2018年11月以降、右記サイトに掲載予定：http://bhso.benesse.ne.jp ※教員専用URL					

認定要件への適合性の申告内容について

事業者名:株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名:スタディープログラム

対象教科:国語

測定内容の区分:標準タイプ

I. 出題に関すること

(1)出題の基本方針

主な対象者:主に、四年制大学・短期大学等への進学を希望する高校1年生・2年生
※特に、高等学校教科書例題レベルの基礎学力定着を確実にしたい高等学校

☐測定しようとする資質・能力

「書くこと」「読むこと」に関する資質・能力

☐出題範囲:

1年生第1回…高1の3月～5月での実施期間で、義務教育範囲からの出題
1年生第2回…高1の8月～10月での実施期間で、高1の1学期までの履修範囲からの出題
1年生第3回…高1の12月～1月での実施期間で、高1の2学期までの履修範囲からの出題
2年生第1回…高2の3月～5月での実施期間で、高1全履修範囲からの出題
2年生第2回…高2の8月～10月での実施期間で、高2の1学期までの履修範囲からの出題
2年生第3回…高2の12月～1月での実施期間で、高2の2学期までの履修範囲からの出題
※実施校に対する指導状況の調査で全国の高等学校の履修状況を把握し出題範囲を決定しています。

☐主として「知識・技能」を問う問題の出題方針:

漢字や語彙、古典知識・文法、読み取りの問題を、主に選択式で出題。

☐主として「思考力・判断力・表現力」等を問う問題の出題方針:

文章等から得られた情報をもとに推論するなど思考を求めたり、考えたことを自分の言葉で表現したりする問題を、主に「記述式」で出題。

☐難易度: 平均50～60%程度の得点率となる難易度

(2)構成等

①出題形式

選択式80～90%、記述式10～20%程度(一部短答式を含む)。

②出題範囲

※設問数、配点ベースともほぼ同様。

学年	回	義務教育範囲	必修教科科目範囲 (国語総合)	選択科目範囲 (古典AB)	備考
高1	1回	100%	0%	0%	
	2回	0%	100%	0%	
	3回	0%	100%	0%	
高2	1回	0%	100%	0%	
	2回	0%	60%	40%	
	3回	0%	60%	40%	

(3) 難易度設定の考え方・方法

弊社の他アセスメントにおける、対象となる成績層の過去の結果データを踏まえて、全体で 50～60%程度の得点率となる難易度。

(4) 基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫

- ・「スタディープログラム」として学習教材・学習動画が備わっており、診断前後の基礎学力の定着を行うことができます。
- ・診断後は、個人に結果に応じて、受検者が自分の弱点分野に対して重点的に振り返ることができます。

(5) その他特長

毎年同一問題であるため、過年度の比較（今年の高 1 生は、昨年度の高 1 生に比べて学力はどの程度の到達度か、など）が可能。

Ⅱ. 結果提供に関すること

(1) 受検者個人への結果提供内容・方法

1 回めと 2 回めに分けて学校を通じて受検者個人へ結果を提供します。

1 回め：「マーク式」結果（学習状況の結果を含む）について、紙媒体とデータで提供。

※イメージは帳票見本「個人診断レポート」（資料 2）を参照（今後 19 年度に向けて開発予定）

2 回め：「マーク式」と「記述式」をあわせた結果について、データで提供。

※イメージは帳票見本「個人診断レポート」（資料 4）を参照（今後 19 年度に向けて開発予定）

1 回めの結果提供内容：教科基礎学力と学習習慣に関する診断結果と、その結果に基づいた学習改善につながる学習動画の案内を提供。

＜個人診断レポート＞ 学校を通じて紙媒体で提供、専用無料 Web サイトを通じてデータを提供
「マーク式」結果による学力診断および学習診断結果を提供します（全体結果、教科別の詳細結果）。診断結果に応じて学習改善に向けた具体的な復習優先項目と該当する学習動画の案内を各教科で提供します。また、教科別の詳細結果として「マーク式」の小問単位採点結果と対応する分野・単元の学習動画を提示します。

2 回めの結果提供内容：1 回めの提供内容に、「記述式」問題の結果、「思考力・判断力・表現力」の観点等を追加して提供。

＜個人診断レポート＞ 専用無料 Web サイトを通じてデータを提供

「マーク式」と「記述式」をあわせた結果による学力診断結果を提供します（全体結果、教科別の詳細結果）。診断結果は、前回結果との比較も確認することができます。教科別に「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の観点別評価を表示します。また、教科別の詳細結果として「記述式」の小問単位採点結果と答案画像を提供します。

学力診断の主な指標として、得点（得点率）、学習到達ゾーン（以下 GTZ ※1）を用います。また、受検者が学習の積み上がり度を把握し、学習のモチベーションを高める仕掛けとして Step を用います。Step は各問題に該当する学習項目に応じて設定し、習得状況を把握することで学習改善の材料として活用することができます。

※1：GTZ（学習到達ゾーン）：ベネッセが独自で設定している学力到達指標。

(2)学校等への結果提供内容・方法

1 回めと 2 回めに分けて学校へ結果を提供します。

1 回め：「マーク式」結果（学習状況の結果を含む）について、紙媒体とデータで提供。

※イメージは帳票見本「学年診断レポート」（資料 1）を参照（今後 19 年度に向けて開発予定）

2 回め：「マーク式」と「記述式」をあわせた結果について、データで提供。

※イメージは帳票見本「学年診断レポート」（資料 3）を参照（今後 19 年度に向けて開発予定）

1 回めの結果提供内容：教科基礎学力と学習習慣に関する集計結果と、その結果に基づいた指導改善につながる学習ツール（学習教材、学習動画）の案内を提供。

＜学年診断レポート＞ 紙媒体の提供と専用無料 Web サイトを通じてデータを提供

「マーク式」結果による学力診断および学習診断結果を提供します（全体結果、教科別の詳細結果）。診断結果に応じて具体的な課題分野・単元項目（既習範囲の課題分野・単元のほか、今後の学習範囲でつまづきが予想される分野・単元）と該当する学習ツール（学習教材、学習動画）の案内を各教科で提供します。また、教科別の詳細結果としてマーク式の小問単位集計結果を提供します。

2 回めの結果提供内容：1 回めの提供内容に「記述式」の結果、「思考力・判断力・表現力」の観点等を追加して提供。

＜学年診断レポート＞ 専用無料 Web サイトを通じてデータを提供

「マーク式」と「記述式」をあわせた結果による学力診断を提供します（全体結果、教科別の詳細結果）。1 回めの結果内容に加えて、教科別に「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の観点別評価を表示します。診断結果は、過去受検回の結果との比較も確認することができます。全体結果では、学年全体の集計のほか、クラス別の集計結果についても提供します。また、教科別の詳細結果として「マーク式」に加えて「記述式」の小問単位集計結果を提供します。

学力診断の主な指標として、得点（得点率）、学習到達ゾーン（以下 GTZ ※1）を用います。また、受検者の学習積み上がり度を把握し、学習のモチベーションを高める仕掛けとして Step を用います。Step は各問題に該当する学習項目に応じて設定し、各教科の Step 毎に受検者の得点状況を把握することで、今後の指導改善の材料として活用することができます。

※1：GTZ（学習到達ゾーン）：ベネッセが独自で設定している学力到達指標。

＜設置者等への報告書フォーム＞ 専用無料 Web サイトを通じてデータを提供

設置者等への報告資料の雛型となる書式をデータで提供予定。この書式と情報を元に学校で、設置者等への報告資料を作成できることを想定。

※書式イメージは、帳票見本「設置者等への報告書フォーム」（資料 5）を参照（今後 19 年度に向けて開発予定）

(3)試験等の結果(正答状況やスコア等)に対する評価の考え方と分析の手法

当診断では「マーク式」「記述式」とともに問題に配点を設定し、得点結果をもとにベネッセの学校向け教科アセスメント共通の指標である「GTZ（学習到達ゾーン）」に紐づけます。

＜GTZ（学力の到達度）の目安＞

進研模試の結果を参考に GTZ の各ゾーンについて次のような目安を設けています。

GTZ の目安は、各教科における到達度を大きく 5 段階に分けて大学等の進学先で必要とされる力を定義し、段階ごとに各教科の「〇〇できる」という定性評価を記載します。

Ⅲ. 運営に関すること

(1) 問題の質を確保するための方法

制作する出題については、複数名の作問スタッフが問題作成から検討を行い、そのうえで、作問を行っていないチェック者が第三者的視点で、問題の質を吟味することで、出題の客観性を保ちます。

(2) 学校における実施方法

ベネッセから学校に問題などの資材を送り学校にて実施を行います。実施の手引き等で、実施準備、実施手順等の情報を提供します。随時質問を受け付けられるよう、問い合わせ窓口を設けます。各学校につきベネッセの担当者が各拠点で配置されており、申込みや実施の不明点等の確認や対応を行うことも可能。教科単位で受検など、学校単位で状況に応じた実施が可能。基本的には実施可能期間の設定があり、学校においては期間内で受検日を設定し、学年単位で一斉実施を行います。当日欠席の受検者などの対応として、別日程での受検も可能。

(3) 採点の方法と体制

弊社では、採点ガイドラインに基づき、採点結果の信頼性の向上、採点の合理化、迅速化を図るため、種々の取組を実施しています。採点者は、学力と採点適性を見極めるための試験に合格し、年間を通じて研修や、実際の採点経験の中で様々なトレーニングを受け、採点スキルの向上を図ります。また、採点結果の信頼性の向上のため、定期的なサンプリング調査や個別のフィードバックを実施しています。

(4)情報管理体制

セキュリティ

- ・ベネッセは、ISO27001（情報セキュリティマネジメント）、JISQ15001（Pマーク）の認定を取得しています。各規格の要求事項を踏まえ、業務の構築・運用設計を行い、機密情報や個人情報に関する破損・紛失・漏えいリスクの低減や回避を図ります。

全体では、以下の観点でセキュリティ施策を実施します。

観点	概要
A. 人に関する施策	(1)ベネッセグループのセキュリティ規程研修の実施 (2)機密(個人)情報取り扱い各種ルールへの遵守
B. 場所に関する施策	(1)ゾーニング施策によるセキュリティ水準確保 ①関係者以外の侵入防止と入退出管理・履歴取得 ②災害対策 ③情報隔離・持ち出し防止 ④保管・廃棄時の安全性確保 (2)拠点の設備・運用の安全性の確認
C. 工程に関する施策	(1)各工程で個別に配慮すべき施策内容・留意事項の確認 ①情報の取得(生成)時 ②情報の利用時 ③情報保管期間内 ④情報の移送(送信)時 ⑤情報の廃棄(消去)時
D. 電子的情報に関する施策	ベネッセセキュリティ基準に準じ、使用する情報機器のセキュリティ対策
E. 業務システムに関する施策	ベネッセのセキュリティ基準に則りセキュリティ施策を実施

緊急事態や不測の事態への対応

- ・緊急事態や不測の事態へ対応するため、発生時の報告・連絡・相談体制をあらかじめ構築します。
- ・事故・障害発生時に備えて、あらかじめ担当メンバーの緊急連絡網を作成し、重大事案発生時には速やかに事業推進責任者に報告を行い、対応の判断・指示をすることで、的確かつ迅速に対応し、影響を最小限に抑える体制を準備します。

IV. 情報開示に関すること

(1) 障害のある受検者等への配慮

1 視覚障害ある受検者への配慮

受検校のご要望をうけ、準備期間をいただき、問題の点訳、一部資料の拡大対応を予定します。弊社では従来のアセスメント実施で経験、実績ある対応です。

2 聴覚障害ある受検者への配慮

リスニング問題「聞くこと」実施に際し、音声と同じスクリプトを該当の受検者に見ていただける用意をして、解答できるよう対応します。

(2) 事前／事後学習教材の有無、内容

本「スタディープログラム」は、学習ツールと診断ツールが一体となった教材です。そのため、学習教材として、分野・単元別の学習教材、分野・単元別の学習動画を提供します。

(3) 学習状況等のアンケートの有無、内容

学習状況調査

受検者の学習状況・学習意識を調査する簡易的な質問紙調査

学習状況の把握とあわせて、改善のための材料として診断に用います。

(4) 個人受検の可否

学校での指導を前提としたアセスメント教材であるため、個人受検はできません。

(5) 問題内容の情報提供

問題、解答・解説について、インターネット等を通じた一般公開・配布は行いません。

受検者には、問題、解答・解説を紙媒体で人数分提供します。

また、受検者数に応じて、教師用予備部数も一定数提供します。

(6) その他

教育委員会等への情報提供に係る対応として、学校から教育委員会等への情報提供の元となる書式・集計結果を提供します。前提として、教育委員会等への情報提供は、弊社から直接は行えません。但し教育委員会主催の場合はこの限りではありません。

認定要件への適合性の申告内容について

事業者名:株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名:スタディープログラム

対象教科:数学

測定内容の区分:標準タイプ

I. 出題に関すること

(1)出題の基本方針

主な対象者:主に、四年制大学・短期大学等への進学を希望する高校1年生・2年生
※特に、高等学校教科書例題レベルの基礎学力定着を確実にしたい高等学校

□測定しようとする資質・能力

義務教育範囲も含めて、

数学Ⅰ「数と式」「図形と計量」「二次関数」「データ分析」

数学Ⅱ「いろいろな式」「図形と方程式」「指数関数・対数関数」「三角関数」「微分・積分の考え」

数学A「場合の数と確率」「図形の性質」「整数の性質」

数学B「数列」「ベクトル」

に関する資質・能力 等

□出題範囲:

1年生第1回…高1の3月～5月での実施期間で、義務教育範囲からの出題

1年生第2回…高1の8月～10月での実施期間で、高1の1学期までの履修範囲からの出題

1年生第3回…高1の12月～1月での実施期間で、高1の2学期までの履修範囲からの出題

2年生第1回…高2の3月～5月での実施期間で、高1全履修範囲からの出題

2年生第2回…高2の8月～10月での実施期間で、高2の1学期までの履修範囲からの出題

2年生第3回…高2の12月～1月での実施期間で、高2の2学期までの履修範囲からの出題

※実施校に対する指導状況の調査から、全国の高等学校の履修状況を把握し、出題範囲を決定しています。

□主として「知識・技能」を問う問題の出題方針:

計算や公式を用いて解答する問題を、主に選択式で出題。

□主として「思考力・判断力・表現力」等を問う問題の出題方針:

数学の知識を用いて与えられた条件下における課題解決を問うたり、数式や言葉を用いて思考プロセスを説明したりする問題を、選択式・短答式・記述式で出題。

□難易度: 平均50～60%程度の得点率となる難易度

(2)構成等

①出題形式

選択式80～90%、記述式10～20%程度(一部短答式を含む)。

②出題範囲

※設問数、配点ベースともほぼ同様。

学年	回	義務教育範囲	必履修科目範囲 (数学Ⅰ)	選択科目範囲 (数学A)	選択科目範囲 (数学A以外)	備考
高 1	1 回	100%	0%	0%	0%	
	2 回	0%	60%	40%	0%	*1
	3 回	0%	60%	40%	0%	*1
高 2	1 回	0%	60%	40%	0%	*1
	2 回	0%	35%	15%	50%	*1
	3 回	0%	35%	15%	50%	*1

(※1) 複数の選択大問があるため、必履修範囲科目の割合が大きい受検パターンにて記載。

(3)難易度設定の考え方・方法

弊社の他アセスメントにおける、対象となる成績層の過去の結果データを踏まえて、全体で 50～60%程度の得点率となる難易度。

(4)基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫

- ・「スタディープログラム」として学習教材・学習動画が備わっており、診断前後の基礎学力の定着を行うことができます。
- ・診断後は、個人に結果に応じて、受検者が自分の弱点分野に対して重点的に振り返ることができます。

(5)その他特長

- ・毎年同一問題であるため、過年度の比較（今年の高 1 生は、昨年度の高 1 生に比べて学力はどの程度の到達度か、など）が可能。

Ⅱ．結果提供に関すること

(1)受検者個人への結果提供内容・方法

(略) ※スタディープログラム（国語）の申請様式参照

(2)学校等への結果提供内容・方法

(略) ※スタディープログラム（国語）の申請様式参照

(3)試験等の結果(正答状況やスコア等)に対する評価の考え方と分析の手法

(略) ※スタディープログラム（国語）の申請様式参照

Ⅲ. 運営に関すること

(1) 問題の質を確保するための方法

(略) ※スタディープログラム（国語）の申請様式参照

(2) 学校における実施方法

(略) ※スタディープログラム（国語）の申請様式参照

(3) 採点の方法と体制

(略) ※スタディープログラム（国語）の申請様式参照

(4) 情報管理体制

(略) ※スタディープログラム（国語）の申請様式参照

Ⅳ. 情報開示に関すること

(1) 障害のある受検者等への配慮

(略) ※スタディープログラム（国語）の申請様式参照

(2) 事前／事後学習教材の有無、内容

(略) ※スタディープログラム（国語）の申請様式参照

(3) 学習状況等のアンケートの有無、内容

(略) ※スタディープログラム（国語）の申請様式参照

(4) 個人受検の可否

(略) ※スタディープログラム（国語）の申請様式参照

(5) 問題内容の情報提供

(略) ※スタディープログラム（国語）の申請様式参照

(6) その他

(略) ※スタディープログラム（国語）の申請様式参照

認定要件への適合性の申告内容について

事業者名:株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名:スタディープログラム

対象教科:英語

測定内容の区分:標準タイプ

I. 出題に関すること

(1)出題の基本方針

主な対象者:主に、四年制大学・短期大学等への進学を希望する高校1年生・2年生
※特に、高等学校教科書例題レベルの基礎学力定着を確実にしたい高等学校

□測定しようとする資質・能力

「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」に関する資質・能力 等

□出題範囲:

- 1年生第1回…高1の3月～5月での実施期間で、義務教育範囲からの出題
- 1年生第2回…高1の8月～10月での実施期間で、高1の1学期までの履修範囲からの出題
- 1年生第3回…高1の12月～1月での実施期間で、高1の2学期までの履修範囲からの出題
- 2年生第1回…高2の3月～5月での実施期間で、高1全履修範囲からの出題
- 2年生第2回…高2の8月～10月での実施期間で、高2の1学期までの履修範囲からの出題
- 2年生第3回…高2の12月～1月での実施期間で、高2の2学期までの履修範囲からの出題
- ※実施校に対する指導状況の調査から、全国の高等学校の履修状況を把握し、出題範囲を決定しています。

□主として「知識・技能」を問う問題の出題方針:

英単語や文法、聞き取り、読み取りの問題を、主に選択式で出題。

□主として「思考力・判断力・表現力」等を問う問題の出題方針:

文章や図表等から得られた情報をもとに推論するなど思考を求めたり、自分の考えを英語で記述・口述したりする問題を、主に記述式で出題。

□難易度:

- ・平均50～60%程度の得点率となる難易度
- ・CEFRにおける「A1～A2」程度

(2)構成等

①出題形式

選択式80～90%、記述式10～20%（一部短答式を含む）程度。

Listening:すべて選択式（10問程度）。リスニングCDによる音声放送。

Reading:すべて選択式（30問程度）

Writing:すべて記述式（4～5問程度、10～20語程度）。

Speaking:対面式（7問程度）。

※「話す」技能については、測定することに代えて問題、解答例及び採点基準を提供。

②出題範囲

※設問数、配点とも同じ。

学年	回	義務教育範囲	必修科目範囲 (コミュニケーション英語Ⅰ)	選択科目範囲 (コミュニケーション英語Ⅱ)	備考
高 1	1 回	100%	0%	0%	
	2 回	40%	60%	0%	
	3 回	40%	60%	0%	
高 2	1 回	40%	60%	0%	
	2 回	10%	60%	30%	
	3 回	10%	60%	30%	

(3)難易度設定の考え方・方法

弊社の他アセスメントにおける、対象となる成績層の過去の結果データを踏まえて、全体で 50～60%程度の得点率となる難易度。

(4)基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫

- ・「スタディープログラム」として学習教材・学習動画が備わっており、診断前後の基礎学力の定着を行うことができます。
- ・診断後は、個人に結果に応じて、受検者が自分の弱点分野に対して重点的に振り返ることができます。

(5)その他特長

- ・毎年同一問題であるため、過年度の比較（今年の高 1 生は、昨年度の高 1 生に比べて学力はどの程度の到達度か、など）が可能。

Ⅱ．結果提供に関すること

(1)受検者個人への結果提供内容・方法

(略) ※スタディープログラム（国語）の申請様式参照

(2)学校等への結果提供内容・方法

(略) ※スタディープログラム（国語）の申請様式参照

2 回めの結果提供：英語については、技能別にも提供します。

(3)試験等の結果(正答状況やスコア等)に対する評価の考え方と分析の手法

(略) ※スタディープログラム（国語）の申請様式参照

Ⅲ. 運営に関すること

(1) 問題の質を確保するための方法

(略) ※スタディープログラム (国語) の申請様式参照

(2) 学校における実施方法

(略) ※スタディープログラム (国語) の申請様式参照

(3) 採点の方法と体制

(略) ※スタディープログラム (国語) の申請様式参照

(4) 情報管理体制

(略) ※スタディープログラム (国語) の申請様式参照

Ⅳ. 情報開示に関すること

(1) 障害のある受検者等への配慮

(略) ※スタディープログラム (国語) の申請様式参照

(2) 事前／事後学習教材の有無、内容

(略) ※スタディープログラム (国語) の申請様式参照

(3) 学習状況等のアンケートの有無、内容

(略) ※スタディープログラム (国語) の申請様式参照

(4) 個人受検の可否

(略) ※スタディープログラム (国語) の申請様式参照

(5) 問題内容の情報提供

(略) ※スタディープログラム (国語) の申請様式参照

(6) その他

(略) ※スタディープログラム (国語) の申請様式参照

(様式3)

認定要件への適合性を示す書類等一覧について

事業者名：株式会社ベネッセコーポレーション
測定ツール名：スタディープログラム
対象教科：国語・数学・英語
測定内容の区分：標準タイプ

I. 出題に関すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定基準				
			I. (1)	I. (2)	I. (3)	I. (4)	I. (5)

II. 結果提供に関すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定基準	
			II. (1)	II. (2)
帳票見本:1回目返却「マーク式」教師用	学年診断レポート ※見本は作成中のイメージです。19年度に向けて開発予定です。	資料1		○
帳票見本:1回目返却「マーク式」生徒用	個人診断レポート ※見本は作成中のイメージです。19年度に向けて開発予定です。	資料2	○	
帳票見本:2回目返却「マーク式」+「記述式」:教師用	学年診断レポート ※見本は作成中のイメージです。19年度に向けて開発予定です。	資料3		○
帳票見本:2回目返却「マーク式」+「記述式」:生徒用	個人診断レポート ※見本は作成中のイメージです。19年度に向けて開発予定です。	資料4	○	
帳票見本:設置者等報告用	設置者等への報告書フォーム ※見本は作成中のイメージです。19年度に向けて開発予定です。	資料5		○

III. 運営に関すること

<提出必須の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
実施要項(試験時間、実施方式、実施期間、受検料、標準返却期間等)	実施案内書2年1回 ※類似の「スタディーサポート」を提出、今後19年度に向けて作成予定です。	資料6
学校用実施マニュアル	実施の手引き2年1回 ※類似の「スタディーサポート」を提出、今後19年度に向けて作成予定です。	資料7

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号

IV. 情報開示に関すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号

進級後の 「再スタート」を 成功させる

2017年度
2年生第1回
延べ受験者数

約**53万人**

スタディーサポート

2018年度2年生第1回のご案内

実施期間：3/1(木)～5/31(木)

Benesse High School Onlineでも
スタディーサポートをご紹介します。



実施の流れや教材の説明などを掲載しています。

<https://bhso.benesse.ne.jp/>

ハイスクールオンライン

検索

※ログイン後、トップ画面の「テスト&教材」から「スタディーサポート」をクリックしてください。
※ご利用には、学校ID・ログインコード または 先生個人ID・パスワードが必要です。
※画面は変更になる場合があります。

「スタディーサポート × Classi ラーニングシステム」については、同封の「スタディーサポート × Classi ラーニングシステムお申し込みのご案内」をご確認ください。

1 2018年度スタディーサポートの改訂ポイント P.2

2 アイテム紹介 P.3

3 実施の流れと実施例・結果のご活用 P.4-5

4 実施概要と出題範囲 P.6-7

5 お申し込み方法・よくあるお問い合わせ P.8

生徒の「自ら学ぶ」を後押しするスタディーサポートは2018年度に5つの改訂を行いました。

5つの改訂ポイント

1

『スタディーサポート Planning BOOK 2年生』導入 >>P.3
学びと進路をつなぎ、進路意識を深化

2

「クラス診断レポート」リニューアル >>P.3
生徒一人ひとりの面談ストーリーが見える

3

「学年診断レポート」リニューアル >>P.3
学年と教科で情報を共有し、連携指導ができる

4

「学力リサーチ」新傾向問題を出題 >>P.7
知識・技能の習得から活用までを重点的に測定

5

「志向性チェック」導入 >>P.2
生徒の志向性(強み)の把握で学習の目的を明確化することが可能に

Renewal

生活状況

学習習慣

学習姿勢

進路意識

+

志向性

起床・就寝時間や学習時間に加え、2017年度からは「学習姿勢(学習行動・学習方法・学習のとらえ方)」を追加し、生徒の学習状況をより多面的に把握できるようになりました。

2018年度からは、希望進路だけでなく、生徒の志向性(強み)をあわせて確認できるようになりました。

※2017年度より、学習状況リサーチの設問を一部追加・変更しております。変更に伴って、2016年度以前にご受検いただいたデータとの過回比較ができなくなる質問もあります。

実施前から実施後まで 「自ら学ぶ」生徒の育成をサポートします。

実施前

スタディーサポート受験に向けて、目標設定や事前学習に計画的に取り組ませます。



スタディーサポート活用BOOK*
目標設定、振り返りのワークを掲載。事前学習用問題集(スタディーチャージ)もついています。



▲目標設定ワーク
めざす進路のレベルなどをもとに、目標を設定させ、事前学習への取り組み意欲を向上させます。



▲問題集(スタディーチャージ)
目標正解率達成をめざして、スタディーチャージに取り組ませます。「基本」「標準」「応用」の問題をご用意しています。



教師用ガイド
スタディーサポートの活用方法について、詳しく説明しています。

*問題発送時にお申し込み人数分をお届けしますので、スタディーサポート実施の事前学習としてご利用いただくことができます。学校のご指導に合わせて、実施後にもご利用いただけます。

実施

国数英の基礎学力と、学習習慣や進路についての生徒の状況を調べます。



学力リサーチ

診断項目ごとの学力の到達度を確かめるマーク式の学力検査です。2018年度より、知識・技能を活用する力を測る出題も追加しています。



学習状況リサーチ

生徒一人ひとりの進路意識・生活状況・学習習慣・学習姿勢を調査するアンケートです。また2018年度より、志向性チェックを追加しました。



学校オリジナル質問

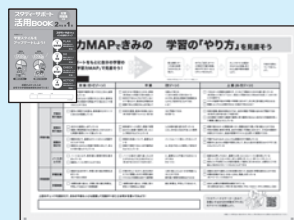
オプション機能として、学校で独自に質問項目を設定し、結果を集計することができます。サンプルをまとめた「学校オリジナル質問パターン集」から選択してご利用いただくことも可能です。



※問題発送時に、「実施の手引き」と一緒にお届けします。
※Benesse High School Online内の「インターネットフォルダ」にて、結果データをご確認いただけます。
※全国集計結果との比較フォーマットに各校データを貼り付けることで、全国集計結果とも比較できます。

実施後

生徒一人ひとり、クラス全体、学年全体、教科ごとの学力・学習の状況を把握できます。



▲学力MAP

GTZごとに到達してほしい学習行動や学習習慣を一覧化。自分の学習スタイルを見直すことができます。



スタディーサポートPlanning BOOK

進路研究を行ううえでのポイントや学力向上に向けた学習ポイントに関する情報を掲載しています。



個人診断レポート

今の自分に対する気づきと、「次の一歩」を踏みだすきっかけを得られます。



クラス診断レポート

クラス結果・生徒結果をまとめています。短い面談時間にも、深い生徒把握にもご利用いただけるよう、生徒結果(個人診断票)をリニューアルしています。



学年診断レポート

学年団と教科担任先生で生徒の情報を共有できるよう、これまでの「学年診断レポート」と「教科診断レポート」を1冊にしました。学年全体の現状を、学力・学習習慣両面から教科ごとに詳細に把握できます。

※図版はすべてイメージです。実際のものとは異なる可能性があります。

3

実施の流れと実施例・結果のご活用

貴校実施日の 15日前まで

●お申し込み

→ P.8

お申込みWEBまたはFAX(お電話)にてお申し込みください。
※受験番号修正サービス(P.5)についてもご確認ください。
※WEBでお申し込みされた場合には、WEB上でもご確認いただけます。

●ご請求額のご送金

→ P.8

●お申し込み部数確認

弊社より問題お届け部数についてのご連絡をFAXでお送りしますのでご確認ください。

●問題等到着

早めに部数をご確認ください。万一不足がございましたら「お客様サービスセンター」までご連絡ください。

お届け
するもの

- スタディーサポート活用BOOK・解答解説
- 学カリサーチ・解答解説
- 英語リスニングテスト実施用CD
- 学習状況リサーチ
- マークシート冊子
- 実施の手引き
- 学校オリジナル質問パターン集
- 教師用ガイド

3/1(木)~5/31(木) 実施

●事前準備・実施

生徒に、「スタディーサポート活用BOOK*」の問題集(スタディーチャージ)に取り組みます。実施の準備については、問題と同封されている「実施の手引き」をご確認ください。実施にあたっての手順、注意事項等をまとめています。

*問題発送時にお申し込み人数分をお届けします。学校のご指導に合わせて、実施後にもご活用いただけます。

●マークシートの発送

マークシート 弊社到着後

*早期にご受験いただいた場合、「同一問題」についても、ご返却までに2週間以上かかることがあります。詳細は「お客様サービスセンター」までお問い合わせください。

3~4日後

●マークリード早期配信サービス

マークシート弊社到着から3~4日後に、マークシートの読み取り結果をBenesse High School Online内の「インターネットフォルダ」からダウンロードできます。

約2週間後*

●結果資料発送

弊社にマークシートが到着してから約2週間後に結果資料を発送いたします。また、Benesse High School Online内の「インターネットフォルダ」に、結果データを搭載いたします。

お届け
するもの

- 先生用帳票
- クラス診断レポート
- 学年診断レポート
- バインダー
- 生徒用帳票
- 個人診断レポート

●全国集計結果

スタディーサポート第1回の全国集計結果をFINE SYSTEMでご覧いただけます。

	1回目	2回目	3回目	4回目
マークシート 弊社到着締切日	3/20(火)	4/20(金)	5/30(水)	7/11(水)
全国集計結果 リリース予定日	4/7(土)	5/14(月)	6/9(土)	7/21(土)

※上記スケジュールは、2017年12月時点の予定です。今後変更になる可能性があります。

●受験番号修正サービスについて

新年度に切り替わる前にご実施いただいた場合に対応させていただくサービスとして、受験番号修正サービスを行っています。編成前のクラス・番号(受験番号)を編成後のクラス・番号(受験番号)に修正して結果をお届けする**3～4月の期間限定サービス**です。ご希望の場合には、「スタディーサポート」お申し込み時に、あわせてお申し込みが必要です。実施後に、「**新旧受験番号対応表*1**」をご提出いただければ、編成後のクラス・番号(受験番号)に並べ替えた結果資料をお届け*2します。結果資料の返却方法は、次のパターンからご選択いただけます。

パターン	成績資料のご活用イメージ	結果資料	
		受験時のクラス・番号	編成後のクラス・番号
利用しない	受験時のクラス・番号で資料を活用する。 受験番号の修正は不要。	先生 生徒	
A	クラス編成後に資料を活用する。 受験時のクラス・番号での資料は不要。		先生 生徒
B	受験時のクラス・番号で資料を活用する。 加えて、先生用帳票のみクラス編成後にも必要。	先生 生徒	先生

*1：受験番号修正サービスをご利用の際には、後日、インターネットフォルダから提供する「新旧受験番号対応表(編成前・編成後それぞれの受験番号情報)」の入力とご提出(4月20日までに必着)が必要です。ご提出いただけない場合には、編成後のクラス・番号(受験番号)での結果資料返却ができませんので、ご注意ください。「新旧受験番号対応表」の送受信については、Benesse High School Onlineの「インターネットフォルダ」をご利用いただく必要があります。

*2：編成後の結果は、通常「新旧受験番号対応表」のご提出より約2週間でお届けします。



※上記のスケジュールは目安です。実施時期などにより、前後する可能性があります。

4

実施概要と出題範囲(2年生第1回)

実施期間

3/1(木) ~ 5/31(木)

※実施期間外の実施をご検討の際は、「お客様サービスセンター(0120-350455:通話料無料)」までお問い合わせください。

検査項目

●学力リサーチ(国語・数学・英語)

●学習状況リサーチ

※すべてマーク式です。

学力リサーチのタイプ

タイプ	目標レベル (難易度目安)	測定できる GTZ(学力の到達度)
β	難関国公立大進学レベル (進研模試偏差値:56~)	S~D
α	国公立大進学レベル (進研模試偏差値:46~56)	S~D
θ	4年制大・国公立大進学レベル (進研模試偏差値:~46)	A~D*

* θ タイプでは、Sゾーンは測定できません。

● β ・ α タイプには、「同一問題」と「新作問題」があります。お申し込みの際にいずれかをご選択ください。

● θ タイプは「同一問題」のみになります。

※詳細は、P.7の説明をご確認ください。

実施時間の目安

			β タイプ	α タイプ	θ タイプ
学習状況リサーチ			50分		
学力リサーチ	国語*	現・古・漢	80分	70分	70分
		現・古	60分	60分	60分
		現のみ			50分
	数学		80分	60分	60分
	英語	リスニング有	90分	70分	70分
		リスニング無	80分	60分	60分

* β ・ α タイプは漢文が選択問題、 θ タイプは古文と漢文が選択問題です。

※2018年度より学習状況リサーチに志向性チェック(25問程度)が追加されます。

※上記の実施時間は目安です。正確な診断を行うため、できるだけすべての質問・問題に取り組めるよう実施時間の設定をお願いいたします。

実施時間割例

8:20~8:35	8:40~9:30	9:40~10:40	10:50~11:50	12:00~13:10
受験カード 記入	学習状況 リサーチ (50分)	学力リサーチ 国語 (60分)	学力リサーチ 数学 (60分)	学力リサーチ 英語 (70分)

〈3教科とも α タイプを選択の場合
(国語は現・古、英語は
リスニングを選択する場合)〉

※統一実施日がありませんので、上記のような実施例のほかに、平日の授業後を利用した3~4日間の実施日設定や平日の授業後と土曜日の実施の組み合わせなども可能です。貴校のご都合にあわせて設定してください。

2018年度 料金(税込み)

●ご請求額 2,630円

●標準受験料 2,980円

学力リサーチ 問題について

●「同一問題」について

- ・「同一問題」を選択すると、過去3か年の2年生第1回で「同一問題・同タイプ」のご受験がある場合、設問単位での詳細な学年間（過年度）比較ができます。ただし、変更となった設問については除きます。
- ・2018年度は、数学の $\beta \cdot \alpha \cdot \theta$ タイプを一部変更しました。

●「新作問題」について

- ・「新作問題」は、2018年度に新しくご用意する問題です。国数英総合や各教科について、GTZ（学力の到達度）による学年間比較ができます。

●問題についてのご注意

$\beta \cdot \alpha$ タイプ	「同一問題（2007年度～）」と「新作問題」をご用意します。
θ タイプ	「同一問題（2012年度～）」のみをご用意します。

※教育課程への対応などにより、一部設問を変更しています。

●実施にあたってのご注意

- ①「同一問題」を受験する場合は、比較したい年度と同じタイプ（ $\beta \cdot \alpha \cdot \theta$ ）を選択してください。
異なるタイプを選択されますと、成績結果を比較できません。
×例）昨年度は α タイプの「同一問題」を受験したが、今年度は β タイプの「同一問題」を受験。
- ②「同一問題」「新作問題」を混在させてご受験いただくことはできません。
×例）国語・英語は「新作問題」、数学は「同一問題」を受験。
- ③「 β タイプ」「 θ タイプ」を混在させてご受験いただくことはできません。
×例）国語・英語は「 β タイプ」、数学は「 θ タイプ」を受験。

学力リサーチ 出題範囲

新傾向問題

従来の「問題を解く」という形式に加えて、図を用いて理解する力や、複数の情報を統合して考察する力などを問うといった、知識・技能を活用する力を測る問題を一部出題。

Renewal!

国語 $\beta \cdot \alpha$ タイプ

- 古文は必答問題です。
- 漢文は選択問題です。

知識	・現代文知識 ・古文知識（助動詞、古文単語） ・漢文知識（文の構造、句法、語彙、漢詩の知識）
読解	・現代文評論読解 ・現代文小説読解 ・古文読解 ・漢文読解

θ タイプ

- 古文、漢文とも選択問題です。
- ただし、現代文と漢文の組み合わせでは受験できません。

知識	・現代文知識 ・古文知識（助詞、助動詞） ・漢文知識（文の構造、句法）
読解	・現代文評論読解 ・現代文小説読解 ・古文読解 ・漢文読解

数学 β タイプ

- 数学Ⅰのみでは受験できません。

公式利用	① 数学Ⅰ・A（場合の数・確率、図形の性質） ② 数学Ⅰ・A（場合の数・確率、整数の性質） ※①、②から1つ選択
応用力	数学Ⅰ（2次関数、図形と計量） 数学A（①場合の数・確率、図形の性質 ②場合の数・確率、整数の性質） ※数学Ⅰは必答。数学Aは①、②から1つ選択
総合力	2次関数中心の融合問題

α タイプ

- 数学Ⅰのみでも受験可能です。

公式理解	① 数学Ⅰ ② 数学Ⅰ・A（場合の数・確率、図形の性質） ③ 数学Ⅰ・A（場合の数・確率、整数の性質） ※①～③から1つ選択
公式利用	
応用力	2次関数 図形と計量

θ タイプ

- 数学Ⅰのみでも受験可能です。

公式理解	① 数学Ⅰ（データの分析は除く） ② 数学Ⅰ・A（場合の数・確率、図形の性質） ③ 数学Ⅰ・A（場合の数・確率、整数の性質） ※①～③から1つ選択
公式利用	

英語 $\beta \cdot \alpha$ タイプ

- リスニングは選択問題です。

基本	・語彙 ・文法（文型、動詞の時制、関係代名詞・関係副詞、比較、代名詞）
応用	・文構成 ・読解 ・リスニング

θ タイプ

- リスニングは選択問題です。

基本	・語彙 ・文法（動詞の時制、比較、代名詞）
応用	・文構成 ・読解 ・リスニング

5

お申し込み方法・よくあるお問い合わせ

「スタディーサポート × Classi ラーニングシステム」をお申し込みの場合は、同封の「スタディーサポート × Classi ラーニングシステム お申し込みのご案内」をご確認ください。

簡単！
WEBで
のお申し込み

Benesse High School Online からご利用いただけます。

URL <https://bhso.benesse.ne.jp/>

※お申し込みには、学校ID・ログインコード または 先生個人ID・パスワードが必要です。ご不明な場合は、下記お客様サービスセンターまでお問い合わせください。

★前年度や前回のお申し込み履歴がいつでも確認できます！

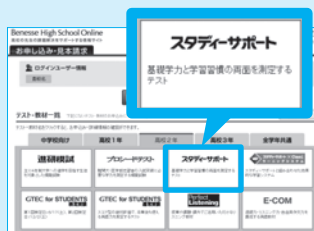
★年間分をまとめてお申し込みいただけます！

※Benesse High School Online
メンテナンス期間は入力できません。

Benesse High School Online上の
「お申し込み／見本請求／請求書出力」をクリック

お申し込みいただく教材をクリック

必要情報を入力してください



※図版はすべてイメージです。実際のものとは異なる可能性があります。

FAXでの
お申し込み

同封の申込書に必要事項をご記入のうえ、「お申し込み専用FAX」へご送信ください。

お申し込み
専用FAX

0120-350470 (通話料無料)

スタディーサポートのみをお申し込みの場合は「スタディーサポート2年生第1回 申込書」をご利用ください。

ご送金方法

- 同封の郵便振替用紙(手数料弊社負担)をご利用のうえ、お申し込みと同時に郵便局よりご送金ください。郵便振替用紙ご記入の際には、今回お申し込みいただくスタディーサポートの「学年」・「回」も忘れずにご記入ください。
- 郵便局がお渡しする「振替払込請求書兼受領証」は貴校の控えとなりますので、大切に保管してください。
- 2017年度より、請求書等が上記WEBよりダウンロードできるようになりました。

よくあるお問い合わせ

Q1. 各教科・タイプの実施時間はどこで確認できますか？	A1. 実施案内書(本冊子)P.6の「実施時間の目安」をご確認ください。
Q2. 出題範囲を生徒に教えてもいいですか？	A2. 出題範囲の取り扱いはいずれも各学校の判断にお任せしています。ただし、告知をする場合は、特定のクラスだけに知らせるといったことがないよう、学校内で公平になるようにお願いいたします。
Q3. 結果はいつ返ってきますか？	A3. 弊社にマークシートが到着してから約2週間後に結果資料を発送いたします。 ※実施日、タイプ、受験番号修正サービスの有無によっては、ご返却に2週間以上かかることがあります。
Q4. 学習状況リサーチとはどのようなものですか？	A4. 生徒一人ひとりの学習習慣・進路意識・生活状況・学習姿勢を調査するアンケートです。2018年度より志向性チェックが追加されており、実施時間の目安は50分です。
Q5. 選択問題を学年で統一する必要はありますか？	A5. 解答する大問が、生徒ごとに異なっても正しく採点されますが、学年全体の強み・課題を正確に診断するためには、学年で統一されることをおすすめします。

お客様
サービスセンター

0120-350455 (通話料無料)

受付時間(祝日、年末・年始を除く)／月～金 8:00～19:00 土 8:00～17:00

(様式4)

測定しようとする資質・能力の具体的内容について

事業者名：株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名：スタディープログラム 1年1回

対象教科：国語

測定内容の区分：標準タイプ

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
与えられた文章に即して、 <u>漢字や語彙</u> （類義語・対義語、同音異義語、多義語、抽象語の使い方など）、および <u>言葉のきまり</u> （口語文法など）を理解し、適切に使うことができる。	【設問数】10問（程度） 【出題形式】選択式	事項 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕	中学校学習指導要領 国語〔第1学年〕 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 イ 言葉の特徴や決まりに関する事項 （ウ） 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙（い）について関心をもつこと。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
論理的な文章について、 <u>指示語・接続語などを手掛かりにし</u> <u>ながら、文章の内容を的確に読</u> <u>み取り、筆者の主張やその主張</u> <u>の根拠を捉えることができる。</u>	【設問数】5問（程度） 【出題形式】選択式	C 読むこと	中学校学習指導要領 国語〔第3学年〕 C 読むこと ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。 イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。 ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。
文学的な文章(小説)について、 <u>描かれている人物、情景、心情</u> <u>などを表現に即して読み取る</u> <u>ことができる。</u>	【設問数】5問（程度） 【出題形式】選択式	C 読むこと	中学校学習指導要領 国語〔第3学年〕 C 読むこと ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。 イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は 事項	科目名及び内容
古典の文章（古文）を読むにあたり、<u>必要な文語の決まり（自立語・付属語の知識）や、基礎的な古語・古典常識を理解し、描かれている人物、情景、心情および展開、要旨などを表現に即して読み取ることができる。</u>	【設問数】5 問（程度） 【出題形式】選択式	項〕 C 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 読むこと	中学校学習指導要領 国語〔第3 学年〕 C 読むこと ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。 イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。 中学校学習指導要領 国語〔第3 学年〕 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 ア 伝統的な言語文化に関する事項 (ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。
古典の文章（漢文）を読むにあたり、<u>必要な決まり（返り点のルールなど）を理解し、描かれている人物、情景、心情および展開、要旨などを表現に即して読み取ることができる。</u>	【設問数】5 問（程度） 【出題形式】選択式	項〕 C 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 読むこと	中学校学習指導要領 国語〔第3 学年〕 C 読むこと ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。 イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。 中学校学習指導要領 国語〔第3 学年〕 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 ア 伝統的な言語文化に関する事項 (ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
複数のテキストの内容を読み取り、 <u>目的に応じて必要な情報に着目し、取捨選択して的確に取り出して説明したり、その内容を比較したうえで、論拠を示しながら考えを形成して説明したりすることができる。</u>	【設問数】1 問（程度） 【出題形式】選択式	C 読むこと	中学校学習指導要領 国語〔第3 学年〕 C 読むこと ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。 イ 文脈の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。 ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。
	【設問数】2 問（程度） 【出題形式】記述式	C B 読むこと 書くこと	中学校学習指導要領 国語〔第3 学年〕 B 書くこと イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。 ウ 書いた文章を読み返し、文章全体を整えること。 C 読むこと ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。 イ 文脈の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。 ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。

(様式4)

測定しようとする資質・能力の具体的内容について

事業者名：株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名：スタディープログラム 1年2回-2年1回

対象教科：国語

測定内容の区分：標準タイプ

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
与えられた文章に即して、 <u>漢字</u> <u>や語彙</u> （類義語・対義語、同音 <u>異義語、多義語、抽象語の使い方</u> <u>など</u> ）、 <u>および言葉のきまり</u> <u>（口語文法など）を理解し、適切</u> <u>に使うことができる。</u>	【設問数】10問（程度） 【出題形式】選択式	事項 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕	国語総合 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 イ 言葉の特徴や決まりに関する事項 （ア） 国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解すること。 （イ） 文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。 ウ 漢字に関する事項 （ア） 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
論理的な文章について、 <u>指示語・接続語などを手掛かりにし</u> <u>ながら、文章の内容を的確に読</u> <u>み取り、筆者の主張やその主張</u> <u>の根拠を捉えることができる。</u>	【設問数】5問（程度） 【出題形式】選択式	C 読むこと	国語総合 C 読むこと イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。
文学的な文章(小説)について、 <u>描かれている人物、情景、心情</u> <u>などを表現に即して読み取る</u> <u>ことができる。</u>	【設問数】5問（程度） 【出題形式】選択式	C 読むこと	国語総合 C 読むこと ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。 イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は 事項	科目名及び内容
古典の文章（古文）を読むにあたり、<u>必要な文語の決まり（自立語・付属語の知識）や、基礎的な古語・古典常識を理解し、描かれている人物、情景、心情および展開、要旨などを表現に即して読み取ることができる。</u>	【設問数】10 問（程度） 【出題形式】選択式 サンプル問題 1	項〕 C 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」読むこと	国語総合 C 読むこと ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。 イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 ア 伝統的な言語文化に関する事項 （ア） 言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げること。 （イ） 文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は 事項	科目名及び内容
古典の文章（漢文）を読むにあたり、 <u>必要な決まり（訓読のルール、基本的な句形・語彙など）を理解し、描かれている人物、情景、心情および展開、要旨などを表現に即して読み取ることができる。</u>	【設問数】 10 問（程度） 【出題形式】 選択式	項 C 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」 読むこと	国語総合 C 読むこと ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。 イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] ア 伝統的な言語文化に関する事項 （ア） 言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げること。 （イ） 文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
複数のテキストの内容を読み取り、 <u>目的に応じて必要な情報に着目し、取捨選択して的確に取り出して説明したり、その内容を比較したうえで、論拠を示しながら考えを形成して説明することができる。</u>	【設問数】1問（程度） 【出題形式】選択式 サンプル問題 2	C 読むこと	国語総合 C 読むこと ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。 イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。
	【設問数】2問（程度） 【出題形式】記述式 サンプル問題 2	C B 読むこと 書くこと	国語総合 B 書くこと イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。 ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。 C 読むこと ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。 イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。 オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。

(様式4)

測定しようとする資質・能力の具体的内容について

事業者名：株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名：スタディープログラム 2年2回-2年3回

対象教科：国語

測定内容の区分：標準タイプ

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
与えられた文章に即して、 <u>漢字</u> <u>や語彙</u> （類義語・対義語、同音 <u>異義語、多義語、抽象語の使い方</u> <u>など</u> ）、 <u>および言葉のきまり</u> <u>（口語文法など）を理解し、適切に使うことができる。</u>	【設問数】10問（程度） 【出題形式】選択式	事項 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕	国語総合 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 イ 言葉の特徴や決まりに関する事項 （ア） 国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解すること。 （イ） 文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。 ウ 漢字に関する事項 （ア） 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
論理的な文章について、 <u>指示語・接続語などを手掛かりにし</u> <u>ながら、文章の内容を的確に読</u> <u>み取り、筆者の主張やその主張</u> <u>の根拠を捉えることができる。</u>	【設問数】5問（程度） 【出題形式】選択式	C 読むこと	国語総合 C 読むこと イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。
文学的な文章(小説)について、 <u>描かれている人物、情景、心情</u> <u>などを表現に即して読み取る</u> <u>ことができる。</u>	【設問数】5問（程度） 【出題形式】選択式	C 読むこと	国語総合 C 読むこと ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。 イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
古典の文章（古文）を読むにあたり、<u>必要な文語の決まり（自立語・付属語の知識）や、基礎的な古語・古典常識を理解したり、描かれている人物、情景、心情および展開、要旨などを表現に即して読み取ることができる。</u>	【設問数】5問（程度） 【出題形式】選択式	古典B A ア・イ ・イ ・ウ ・エ	古典A イ 古典特有の表現を味わったり、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解したりすること。 古典B ア 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解すること。 イ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること。 ウ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。 エ 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。
古典の文章（漢文）を読むにあたり、<u>必要な決まり（訓読のルール、基本的な句形・語彙など）を理解し、描かれている人物、情景、心情および展開、要旨などを表現に即して読み取ることができる。</u>	【設問数】5問（程度） 【出題形式】選択式	古典B A ア・イ ・イ ・ウ ・エ	古典A イ 古典特有の表現を味わったり、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解したりすること。 古典B ア 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解すること。 イ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること。 ウ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。 エ 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
複数のテキストの内容を読み取り、 <u>目的に応じて必要な情報に着目し、取捨選択して的確に取り出して説明したり、その内容を比較したうえで、論拠を示しながら考えを形成して説明したりすることができる。</u>	【設問数】1問（程度） 【出題形式】選択式	C 読むこと	国語総合 C 読むこと ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。 イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。
	【設問数】2問（程度） 【出題形式】記述式	C B 読むこと 書くこと	国語総合 B 書くこと イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。 ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。 C 読むこと ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。 イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。 オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。

(様式 4)

測定しようとする資質・能力の具体的内容について

事業者名:株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名:スタディープログラム 1 年 1 回

対象教科:数学

測定内容の区分:標準タイプ

測定しようとする資質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
累乗の表し方, 文字を用いた式, 展開の公式, 平方根を理解して, 簡単な数式を正しく操作することができる。	【設問数】 11 問 【出題形式】 選択式	A 数と式	中学校学習指導要領 数学〔第 1 学年〕 2A (2) イ 文字を用いた式における乗法と除法の表し方を知ること。 2A (3) ウ 簡単な一元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用すること。 中学校学習指導要領 数学〔第 2 学年〕 2A (2) ウ 簡単な連立二元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用すること。 中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2A (1) イ 数の平方根を含む簡単な式の計算をすること。 2A (2) イ 簡単な一次式の乗法の計算及び次の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすること。 $(a+b)^2 = a^2 + 2ab + b^2$ $(a-b)^2 = a^2 - 2ab + b^2$ $(a+b)(a-b) = a^2 - b^2$ $(x+a)(x+b) = x^2 + (a+b)x + ab$ 2A (3) イ 因数分解したり平方の形に変形したりして二次方程式を解くこと。 ウ 解の公式を知り, それを用いて二次方程式を解くこと。

比例・反比例，一次関数，関数 $y=ax^2$ などのグラフの特徴や式の変化について理解することができる。	【設問数】5 問 【出題形式】選択式	C 関数	中学校学習指導要領 数学〔第 1 学年〕 2C (1) エ 比例，反比例を表，式，グラフなどで表し，それらの特徴を理解すること。 中学校学習指導要領 数学〔第 2 学年〕 2C (1) イ 一次関数について，表，式，グラフを相互に関連付けて理解すること。 中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2C (1) イ 関数 $y=ax^2$ について，表，式，グラフを相互に関連付けて理解すること。
平行線の錯角や同位角，三角形の相似，三平方の定理について理解し，具体的な角度や線分の長さを求めることができる。	【設問数】5 問 【出題形式】選択式	B 図形	中学校学習指導要領 数学〔第 1 学年〕 2B (2) ウ 扇形の弧の長さや面積並びに基本的な柱体，錐(すい)体及び球の表面積と体積を求めること。 中学校学習指導要領 数学〔第 2 学年〕 2B (1) ア 平行線や角の性質を理解し，それに基づいて図形の性質を確かめ説明すること。 中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2B (1) イ 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめること。 2B (3) イ 三平方の定理を具体的な場面で活用すること。

・ <u>簡単な事象の確率を求めることができる。</u> ・ <u>平均値を求めることができる。</u>	【設問数】 4 問 【出題形式】 選択式	D 資料の活用	中学校学習指導要領 数学〔第 1 学年〕 2D (1) ア ヒストグラムや代表値の必要性和意味を理解すること。 中学校学習指導要領 数学〔第 2 学年〕 2D (1) ア 確率の必要性和意味を理解し, 簡単な場合について確率を求めること。 イ 確率を用いて不確定な事象をとらえ説明すること。
--	------------------------------------	-----------------------	--

・ <u>やや複雑な文字式や平方根を含む式の計算，式の展開，因数分解を行う</u>ことができる。 ・ <u>与えられた文章をもとに一次方程式や連立方程式，二次方程式を立式し，解く</u>ことができる。	【設問数】 8 問 【出題形式】 選択式	A 数 と 式	中学校学習指導要領 数学〔第 1 学年〕 2A (3) ウ 簡単な一元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用すること。 中学校学習指導要領 数学〔第 2 学年〕 2A (1) ア 簡単な整式の加法，減法及び単項式の乗法，除法の計算をすること。 2A (2) ウ 簡単な連立二元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用すること。 中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2A (1) イ 数の平方根を含む簡単な式の計算をすること。 2A (2) イ 簡単な一次式の乗法の計算及び次の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすること。 $(a+b)^2 = a^2 + 2ab + b^2$ $(a-b)^2 = a^2 - 2ab + b^2$ $(a+b)(a-b) = a^2 - b^2$ $(x+a)(x+b) = x^2 + (a+b)x + ab$ 2A (3) エ 二次方程式を具体的な場面で活用すること。
--	--	----------------------------	---

・ <u>与えられた文章や条件をもとに一次関数や関数 $y=ax^2$ のグラフを考察することができる。</u>	【設問数】 4 問 【出題形式】 選択式	C 関数	中学校学習指導要領 数学〔第 2 学年〕 2C (1) ウ 二元一次方程式を関数を表す式とみること。 エ 一次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明すること。 中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2C (1) イ 関数 $y=ax^2$ について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解すること。
<u>三角形の相似や円周角の定理を用いて、線分の比や角度、体積を求めることができる。</u>	【設問数】 4 問 【出題形式】 選択式	B 図形	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2B (1) イ 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめること。 ウ 平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確かめること。 エ 基本的な立体の相似の意味と、相似な図形の相似比と面積比及び体積比の関係について理解すること。 2B (2) イ 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用すること。
・ <u>条件を満たす場合の確率を求めることができる。</u> ・ 標本調査の考えをもとに、<u>数を推定することができる。</u>	【設問数】 3 問 【出題形式】 選択式	D 資料の活用	中学校学習指導要領 数学〔第 2 学年〕 2D (1) イ 確率を用いて不確定な事象をとらえ説明すること。 中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2D (1) イ 簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向をとらえ説明すること。

日常的な事象において、<u>与えられた状況を読み取り、適切な数式を表すことができる。</u>	【設問数】1 問 【出題形式】短答式	A 数 と 式	中学校学習指導要領 数学〔第2学年〕 2A (1) イ 文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明できることを理解すること。 ウ 目的に応じて、簡単な式を変形すること。
日常的な事象において、条件から<u>文字を含む関係式をつくり予想したりそれを確かめたりすることを通して、考察の対象を明確に捉えることができるようにする。</u>	【設問数】1 問 【出題形式】記述式		

(様式 4)

測定しようとする資質・能力の具体的内容について

事業者名:株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名:スタディープログラム 1 年 2 回-2 年 1 回 (複数の選択大問があるため, 受検者の多い受検パターンを記載)

対象教科:数学

測定内容の区分:標準タイプ

測定しようとする資質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ <u>公式や数の性質を用いて、式の計算や因数分解、分母の有理化などの簡単な数式の操作を行うことができる。</u>	【設問数】 14 問 【出題形式】 選択式	(1) 数と式	数学 I ア 数と集合 (ア) 実数 数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすること。 (イ) 集合 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用すること。 イ 式 (ア) 式の展開と因数分解 二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深め、式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりすること。 (イ) 一次不等式 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求めたり一次不等式を事象の考察に活用したりすること。
・ <u>和や積の法則、順列や組合せの考え方を用いて、場合の数を求めることができる。</u>	【設問数】 8 問 【出題形式】 選択式	(1) 場合の数と確率	数学 A ア 場合の数 (ア) 数え上げの原則 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則について理解すること。 (イ) 順列・組合せ 具体的な事象の考察を通して順列及び組合せの意味について理解し、それらの総数を求めること。

・ <u>与えられた文章から一次不等式を立式し, 解を求めることができる。</u> ・ <u>条件を満たす集合を求め, その命題の真偽を判断することができる。</u>	【設問数】 10 問 【出題形式】 選択式 サンプル問題 1	(1) 数と式	数学 I ア 数と集合 (イ) 集合 集合と命題に関する基本的な概念を理解し, それを事象の考察に活用すること。 イ 式 (ア) 式の展開と因数分解 二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深め, 式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりすること。 (イ) 一次不等式 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し, 一次不等式の解を求めたり一次不等式を事象の考察に活用したりすること。
<u>積の法則, 順列や組合せの考え方などを用いて, 並び方や組み分けなどの場合の数を求めることができる。</u>	【設問数】 6 問 【出題形式】 選択式	確率 (1) 場合の数と	数学 A ア 場合の数 (ア) 数え上げの原則 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則, 積の法則について理解すること。 (イ) 順列・組合せ 具体的な事象の考察を通して順列及び組合せの意味について理解し, それらの総数を求めること。
日常的な事象において, <u>与えられた状況を読み取り, 適切な関数をつくる</u>ことができる。	【設問数】 1 問 【出題形式】 短答式 サンプル問題 2 問 1	関数 (3) 二次	数学 I ア 二次関数とそのグラフ 事象から二次関数で表される関係を見いだすこと。また, 二次関数のグラフの特徴について理解すること。

日常的な事象の文脈における、<u>条件の変化によって、最大値がどのように変化するかを把握することができる。</u>	【設問数】1 問 【出題形式】選択式 サンプル問題 2 問 2	数学 I ア 二次関数とそのグラフ 事象から二次関数で表される関係を見いだすこと。また、二次関数のグラフの特徴について理解すること。 イ 二次関数の値の変化 (ア) 二次関数の最大・最小 二次関数の値の変化について、グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりすること。
日常的な事象において、<u>複数の条件から新たな数式をつくり、思考プロセスを説明し課題を解決することができる。</u>	【設問数】1 問 【出題形式】記述式 サンプル問題 2 問 3	数学 I ア 二次関数とそのグラフ 事象から二次関数で表される関係を見いだすこと。また、二次関数のグラフの特徴について理解すること。 イ 二次関数の値の変化 (ア) 二次関数の最大・最小 二次関数の値の変化について、グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりすること。 〔課題学習〕 (1)，(2)，(3) 及び(4) の内容又はそれらを相互に関連付けた内容を生活と関連付けたり発展させたりするなどして、生徒の関心や意欲を高める課題を設け、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識できるようにする。

(様式 4)

測定しようとする資質・能力の具体的内容について

事業者名:株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名:スタディープログラム 2 年 2 回-2 年 3 回 (複数の選択大問があるため, 受検者の多い受検パターンを記載)

対象教科:数学

測定内容の区分:標準タイプ

測定しようとする資質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ <u>分母の有理化や一次不等式の処理など, 高校数学の基本的な数式の操作を行うことができる。</u>	【設問数】 4 問 【出題形式】 選択式	(1) 数と式	数学 I ア 数と集合 (ア) 実数 数を実数まで拡張する意義を理解し, 簡単な無理数の四則計算をすること。 (イ) 集合 集合と命題に関する基本的な概念を理解し, それを事象の考察に活用すること。 イ 式 (イ) 一次不等式 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し, 一次不等式の解を求めたり一次不等式を事象の考察に活用したりすること。
<u>二次関数の最大・最小や, 二次不等式の解を求めること</u> ができる。	【設問数】 4 問 【出題形式】 選択式	(3) 二次関数	数学 I ア 二次関数とそのグラフ 事象から二次関数で表される関係を見いだすこと。また, 二次関数のグラフの特徴について理解すること。 イ 二次関数の値の変化 (ア) 二次関数の最大・最小 二次関数の値の変化について, グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりすること。 (イ) 二次方程式・二次不等式 二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解するとともに, 数量の関係を二次不等式で表し二次関数のグラフを利用してその解を求めること。

<u>定理・公式を利用して、三角形の辺の長さや面積などを求めることができる。</u>	【設問数】 4 問 【出題形式】 選択式	(2) 図形と計量	数学 I ア 三角比 (ウ) 正弦定理・余弦定理 正弦定理や余弦定理について理解し、それらを用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めること。 イ 図形の計量 三角比を平面図形や空間図形の考察に活用すること。
<u>四分位偏差や分散の意味を理解し、図やグラフを読み取ることができる。</u>	【設問数】 2 問 【出題形式】 選択式	タ の 分析 (4) デー ー	数学 I ア データの散らばり 四分位偏差、分散及び標準偏差などの意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、説明すること。
<u>順列・組合せについて理解し、簡単な場合の数や確率を求めることができる。</u>	【設問数】 4 問 【出題形式】 選択式	(1) 場合の数と確率	数学 A ア 場合の数 (イ) 順列・組合せ 具体的な事象の考察を通して順列及び組合せの意味について理解し、それらの総数を求めること。 イ 確率 (ア) 確率とその基本的な法則 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率を求めること。また、確率を事象の考察に活用すること。

<u>最小公倍数や不定方程式の整数解を求めることができる。</u>	【設問数】 4 問 【出題形式】 選択式	(2) 整数の性質	数学 A ア 約数と倍数 素因数分解を用いた公約数や公倍数の求め方を理解し、整数に関連した事象を論理的に考察し表現すること。 イ ユークリッドの互除法 整数の除法の性質に基づいてユークリッドの互除法の仕組みを理解し、それを用いて二つの整数の最大公約数を求めること。また、二元一次不定方程式の解の意味について理解し、簡単な場合についてその整数解を求めること。
<u>数の性質や公式を利用して、やや複雑の数式の操作を行うことができる。</u>	【設問数】 3 問 【出題形式】 選択式	(1) 数と式	数学 I ア 数と集合 (ア) 実数 数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすること。 (イ) 集合 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用すること イ 式 (ア) 式の展開と因数分解 二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深め、式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりすること。

<u>文字定数を含む二次関数について、関数を決定することができる。</u>	【設問数】 3 問 【出題形式】 選択式	(3) 二次関数	数学 I ア 二次関数とそのグラフ 事象から二次関数で表される関係を見いだすこと。また、二次関数のグラフの特徴について理解すること。 イ 二次関数の値の変化 (ア) 二次関数の最大・最小 二次関数の値の変化について、グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりすること。
<u>三角形の性質や定理を利用して辺の長さを求めることができる。</u>	【設問数】 4 問 【出題形式】 選択式	形と計量 (2) 図	数学 I ア 三角比 (ウ) 正弦定理・余弦定理 正弦定理や余弦定理について理解し、それらを用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めること。
<u>公式を利用して、やや複雑な事象の場合の数や確率を求めることができる。</u>	【設問数】 3 問 【出題形式】 選択式	(1) 場合の数と確率	数学 A ア 場合の数 (イ) 順列・組合せ 具体的な事象の考察を通して順列及び組合せの意味について理解し、それらの総数を求めること。 イ 確率 (ア) 確率とその基本的な法則 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率を求めること。また、確率を事象の考察に活用すること。

<u>整数の性質を利用して、余りや最大公約数などを求めることができる。</u>	【設問数】3問 【出題形式】選択式	(2) 整数の性質	数学 A ア 約数と倍数 素因数分解を用いた公約数や公倍数の求め方を理解し、整数に関連した事象を論理的に考察し表現すること。 イ ユークリッドの互除法 整数の除法の性質に基づいてユークリッドの互除法の仕組みを理解し、それを用いて二つの整数の最大公約数を求めること。また、二元一次不定方程式の解の意味について理解し、簡単な場合についてその整数解を求めること。
<u>二次方程式の解と係数の関係や剰余の定理について理解できている。</u>	【設問数】3問 【出題形式】選択式	(1) いろいろな式	数学 II イ 高次方程式 (ア) 複素数と二次方程式 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすること。また、二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解すること。 (イ) 因数定理と高次方程式 因数定理について理解し、簡単な高次方程式の解を因数定理などを用いて求めること。
<u>点と直線の距離を求める公式や領域について理解できている。</u>	【設問数】3問 【出題形式】選択式	(2) 図形と方程式	数学 II ア 直線と円 (ア) 点と直線 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や二点間の距離を表すこと。また、座標平面上の直線を方程式で表し、それを二直線の位置関係などの考察に活用すること。 イ 軌跡と領域 軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めること。また、簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすること。

<u>三角関数を含む方程式を解いたり，三角関数を合成したりすることができる。</u>	【設問数】 3 問 【出題形式】 選択式	(4) 三角関数	数学Ⅱ イ 三角関数 (イ) 三角関数の基本的な性質 三角関数について，相互関係などの基本的な性質を理解すること。 ウ 三角関数の加法定理 三角関数の加法定理を理解し，それを用いて 2 倍角の公式を導くこと。
<u>指数関数や対数関数について，計算方法やグラフを理解できている。</u>	【設問数】 2 問 【出題形式】 選択式	(3) 指数関数・対数関数	数学Ⅱ ア 指数関数 (イ) 指数関数とそのグラフ 指数関数とそのグラフの特徴について理解し，それらを事象の考察に活用すること。 数学Ⅱ イ 対数関数 (ア) 対数 対数の意味とその基本的な性質について理解し，簡単な対数の計算をすること。
<u>導関数や不定積分について理解し計算を行うことができる。</u>	【設問数】 3 問 【出題形式】 選択式	(5) 微分・積分の考え	数学Ⅱ ア 微分の考え (イ) 導関数の応用 導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ，グラフの概形をかくこと。また，微分の考えを事象の考察に活用すること。 イ 積分の考え (ア) 不定積分と定積分 不定積分及び定積分の意味について理解し，関数の定数倍，和及び差の不定積分や定積分を求めること。

<u>いろいろな数列の和を求めることができる。</u>	【設問数】 4 問 【出題形式】 選択式	(2) 数列	数学 B ア 数列とその和 (ア) 等差数列と等比数列 等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項及び和を求めること。 (イ) いろいろな数列 いろいろな数列の一般項や和について、その求め方を理解し、事象の考察に活用すること。
<u>ベクトルの内積や位置ベクトルについて理解できている。</u>	【設問数】 4 問 【出題形式】 選択式	(3) ベクトル	数学 B ア 平面上のベクトル (ア) ベクトルとその演算 ベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル及びベクトルの成分表示について理解すること。 (イ) ベクトルの内積 ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解し、それらを平面図形の性質などの考察に活用すること。
<u>三次方程式の解を求めることができる。</u>	【設問数】 3 問 【出題形式】 選択式	(1) いろいろな式	数学 II イ 高次方程式 (イ) 因数定理と高次方程式 因数定理について理解し、簡単な高次方程式の解を因数定理などを用いて求めること。
<u>数式の表す点の軌跡を求めることができる。</u>	【設問数】 2 問 【出題形式】 選択式	(2) 図形と方程式	数学 II イ 軌跡と領域 軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めること。また、簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすること。

三角関数のとり得る値の範囲を求めることができる。	【設問数】1 問 【出題形式】選択式	関数 (4) 三角	数学Ⅱ イ 三角関数 (ア) 三角関数とそのグラフ 三角関数とそのグラフの特徴について理解すること。 ウ 三角関数の加法定理 三角関数の加法定理を理解し、それを用いて2倍角の公式を導くこと。
指数関数や対数関数を含む方程式の解を求めることができる。	【設問数】2 問 【出題形式】選択式	対数関数 (3) 指数関数・	数学Ⅱ ア 指数関数 (イ) 指数関数とそのグラフ 指数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用すること。 イ 対数関数 (イ) 対数関数とそのグラフ 対数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用すること。
放物線で囲まれる部分の面積などを求めることができる。	【設問数】2 問 【出題形式】選択式	微分・積分 (5)	数学Ⅱ イ 積分の考え (イ) 面積 定積分を用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求めること。
数列の和の式から一般項や最大値を求めることができる。	【設問数】3 問 【出題形式】選択式	(2) 数列	数学B ア 数列とその和 (ア) 等差数列と等比数列 等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項及び和を求めること。 (イ) いろいろな数列 いろいろな数列の一般項や和について、その求め方を理解し、事象の考察に活用すること。

ベクトルの性質や条件をもとに、大きさなどを求めることができる。	【設問数】3問 【出題形式】選択式	(3) ベクトル	数学 B ア 平面上のベクトル (ア) ベクトルとその演算 ベクトルの意味, 相等, 和, 差, 実数倍, 位置ベクトル及びベクトルの成分表示について理解すること。 (イ) ベクトルの内積 ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解し, それらを平面図形の性質などの考察に活用すること。
日常的な事象において、与えられた状況を読み取り、適切な関数をつくることができる。	【設問数】1問 【出題形式】短答式	(3) 二次関数	数学 I ア 二次関数とそのグラフ 事象から二次関数で表される関係を見いだすこと。また, 二次関数のグラフの特徴について理解すること。
日常的な事象の文脈における、条件の変化によって、最大値がどのように変化するかを把握することができる。	【設問数】1問 【出題形式】選択式		数学 I ア 二次関数とそのグラフ 事象から二次関数で表される関係を見いだすこと。また, 二次関数のグラフの特徴について理解すること。 イ 二次関数の値の変化 (ア) 二次関数の最大・最小 二次関数の値の変化について, グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりすること。
日常的な事象において、複数の条件から新たな数式をつくり、思考プロセスを説明し課題を解決することができる。	【設問数】1問 【出題形式】記述式		数学 I ア 二次関数とそのグラフ 事象から二次関数で表される関係を見いだすこと。また, 二次関数のグラフの特徴について理解すること。 イ 二次関数の値の変化 (ア) 二次関数の最大・最小 二次関数の値の変化について, グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりすること。

			〔課題学習〕 (1)，(2)，(3)及び(4)の内容又はそれらを相互に関連付けた内容を生活と関連付けたり発展させたりするなどして，生徒の関心や意欲を高める課題を設け，生徒の主体的な学習を促し，数学のよさを認識できるようにする。
--	--	--	---

(様式4)

測定しようとする資質・能力の具体的内容について

事業者名:株式会社ベネッセコーポレーション
測定ツール名:スタディープログラム 1年1回
対象教科:英語
測定内容の区分:標準タイプ

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・会話や説明文を聞いて、その <u>場面や状況、内容を聞き取るこ</u> とができる。	【設問数】10問(程度) 【出題形式】 選択式 ※リスニング 【出題数の割合】 義務教育範囲 10問 【CEFR】A1程度	聞くこと	中学校学習指導要領 外国語 2内容 (1) ア 聞くこと (ア) 強勢, イントネーション, 区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ, 正しく聞き取ること。 (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて, 情報を正確に聞き取ること。 (オ) まとまりのある英語を聞いて, 概要や要点を適切に聞き取ること。
・文レベルで英文内容を理解し、 <u>英語語彙や文法を正しく使用</u> <u>することができる。</u>	【設問数】20問(程度) 【出題形式】 選択式 【出題数の割合】 義務教育範囲 20問 【CEFR】A1程度	読むこと・書くこと	中学校学習指導要領 外国語 2内容 (1) ウ 読むこと (ア) 文字や符号を識別し, 正しく読むこと。 (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり, その内容が表現されるように音読すること。 エ 書くこと (ア) 文字や符号を識別し, 語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。 (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。

(様式4)

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・正しい文法語彙語法知識から日本語の内容に即した英文を再構築することができる。	【設問数】4問(程度) 【出題形式】 記述式 【出題数の割合】 義務教育範囲 4問 【CEFR】A1程度	読むこと・書くこと	中学校学習指導要領 外国語 2内容 (1) ウ 読むこと (ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。 (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。 エ 書くこと (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。 (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。
・複数の人物による会話文を読んで、 <u>その場面や状況、会話の流れなどを推測</u> することができる。	【設問数】6問(程度) 【出題形式】 選択式 【出題数の割合】 義務教育範囲 6問 【CEFR】A1程度	読むこと	中学校学習指導要領 外国語 2内容 (1) ウ 読むこと (ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。 (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。 (ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。 (オ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。

(様式4)

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・まとまりのある英文や、 <u>身近な英語で書かれたチラシや手紙等の情報を読んで、適切な対応をすることが</u> できる。	【設問数】 4問(程度) 【出題形式】 選択式 【出題数の割合】 義務教育範囲 2問 【CEFR】 A1～A2程度	読むこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) ウ 読むこと (ア) 文字や符号を識別し，正しく読むこと。 (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり，その内容が表現されるように音読すること。 (ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。 (エ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し，適切に応じること。 (オ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう，書かれた内容や考え方などをとらえること。

(様式4)

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・与えられた情報を正しく読み取り、 <u>英語で描写したり、自分の意見を簡潔に英語で表現したりする</u> ことができる。	【設問数】2問(程度) 【出題形式】 記述式 【出題数の割合】 義務教育範囲 2問 【CEFR】A1～A2程度	書くこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) エ 書くこと (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。 (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。 (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。 (エ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。

(様式4)

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ 日常的な話題や社会的な話題で、「やり取り」や「発表」を <u>する</u> ことができる。	【設問数】 4問～7問（程度） 【出題形式】 スピーキング 【出題数の割合】 義務教育範囲 4問～7問（程度） 【CEFR】 A1～2程度 ※スピーキング試験は実施せず	話すこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) イ 話すこと (ア) 強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ，正しく発音すること。 (イ) 自分の考えや気持ち，事実などを聞き手に正しく伝えること。 (ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて，問答したり意見を述べ合ったりなどすること。

(様式4)

測定しようとする資質・能力の具体的内容について

事業者名:株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名:スタディープログラム 1年2回-2年1回

対象教科:英語

測定内容の区分:標準タイプ

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・会話や説明文を聞いて、その <u>場面や状況、内容を聞き取るこ</u> とができる。	【設問数】10問(程度) 【出題形式】 選択式 ※リスニング サンプル問題 1 【出題数の割合】 義務教育範囲 5問 コミュニケーション 英語 I 5問 【CEFR】A1 程度	聞くこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) ア 聞くこと (ア) 強勢, イントネーション, 区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ, 正しく聞き取ること。 (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて, 情報を正確に聞き取ること。 (オ) まとまりのある英語を聞いて, 概要や要点を適切に聞き取ること。 コミュニケーション英語 I 2 内容 (1) ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて, 情報や考えなどを理解したり, 概要や要点をとらえたりする。

(様式4)

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ 文レベルで英文内容を理解し、 <u>英語語彙や文法を正しく使用することができる。</u>	【設問数】20 問(程度) 【出題形式】 選択式 【出題数の割合】 義務教育範囲 10 問 コミュニケーション 英語 I 10 問 【CEFR】 A1~A 2 程度	読むこと・書くこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) ウ 読むこと (ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。 (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。 エ 書くこと (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。 (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。 コミュニケーション英語 I 2 内容 (1) エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 (2) イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。

(様式4)

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・正しい文法語彙語法知識から日本語の内容に即した英文を再構築することができる。	【設問数】 4問(程度) 【出題形式】 記述式 【出題数の割合】 コミュニケーション 英語Ⅰ 4問 【CEFR】 A1~A2程度	読むこと・書くこと	コミュニケーション英語Ⅰ 2 内容 (1) イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 (2) イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。
・複数の人物による会話文を読んで、 <u>その場面や状況、会話の流れなどを推測することができる。</u>	【設問数】 6問(程度) 【出題形式】 選択式 サンプル問題 2 【出題数の割合】 義務教育範囲 2問 コミュニケーション 英語Ⅰ 4問 【CEFR】 A1~A2程度	読むこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) ウ 読むこと (ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。 (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。 (ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。 コミュニケーション英語Ⅰ (1) イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。

(様式4)

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・まとまりのある英文や、身近な英語で書かれた <u>チラシや手紙等の情報を読んで、適切な対応をすることが</u> できる。	【設問数】 4 問 (程度) 【出題形式】 選択式 【出題数の割合】 コミュニケーション 英語 I 4 問 【CEFR】 A1～A2 程度	読むこと	コミュニケーション英語 I 2 内容 (1) イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。

(様式4)

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・与えられた情報を正しく読み取り、 <u>英語で描写したり、自分の意見を簡潔に英語で表現したりする</u> ことができる。	【設問数】 2問(程度) 【出題形式】 記述式 サンプル問題 3 【出題数の割合】 義務教育範囲 1問 コミュニケーション 英語 I 1問 【CEFR】 A1～A2 程度	書くこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) エ 書くこと (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。 (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。 (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。 (エ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。 コミュニケーション英語 I 2 内容 (1) エ 聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて，簡潔に書く。 (2) イ 内容の要点を示す語句や文，つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。

(様式4)

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ 日常的な話題や社会的な話題で、「やり取り」や「発表」<u>をすることができる。</u>	【設問数】4問～7問(程度) 【出題形式】スピーキング 【出題数の割合】義務教育範囲 3問～5問(程度) コミュニケーション英語Ⅰ 1問～2問(程度) 【CEFR】A1～2程度 <u>サンプル問題 4</u> ※スピーキング試験は実施せず	話すこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) イ 話すこと (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。 (イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。 (ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。 コミュニケーション英語Ⅰ (1) イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 (2) ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。

(様式4)

測定しようとする資質・能力の具体的内容について

事業者名:株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名:スタディープログラム 2年2回-2年3回

対象教科:英語

測定内容の区分:標準タイプ

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・会話や説明文を聞いて、その <u>場面や状況、内容を聞き取るこ</u> とができる。	【設問数】10問(程度) 【出題形式】 選択式 ※リスニング 【出題数の割合】 コミュニケーション 英語 I 10問 【CEFR】A1~A2 程度	聞くこと	コミュニケーション英語 I 2 内容 (1) ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

(様式4)

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ 文レベルで英文内容を理解し、 <u>英語語彙や文法を正しく使用することができる。</u>	【設問数】20 問(程度) 【出題形式】 選択式 【出題数の割合】 コミュニケーション 英語Ⅰ 15 問 コミュニケーション 英語Ⅱ 5 問 【CEFR】A1~A 2 程度	読むこと・書くこと	コミュニケーション英語Ⅰ 2 内容 (1) イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 (2) イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。 コミュニケーション英語Ⅱ 2 内容 (1) エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。 (2) ウ 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすること。 エ 説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように話したり書いたりすること。

(様式4)

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・正しい文法語彙語法知識から日本語の内容に即した英文を再構築することができる。	【設問数】 4問(程度) 【出題形式】 記述式 【出題数の割合】 コミュニケーション英語Ⅰ 2問 コミュニケーション英語Ⅱ 2問 【CEFR】 A1~A2程度	読むこと・書くこと	コミュニケーション英語Ⅰ 2 内容 (1) イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 (2) イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。 コミュニケーション英語Ⅱ 2 内容 (1) エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。 (2) ウ 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすること。 エ 説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように話したり書いたりすること。

(様式4)

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・複数の人物による会話文を読んで、 <u>その場面や状況、会話の流れなどを推測することができる。</u>	【設問数】 6問(程度) 【出題形式】 選択式 【出題数の割合】 コミュニケーション英語Ⅰ 4問 コミュニケーション英語Ⅱ 2問 【CEFR】 A1～A2程度	読むこと	コミュニケーション英語Ⅰ 2 内容 (1) イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 コミュニケーション英語Ⅱ 2 内容 (1) イ 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。 (2) イ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連などを考えながら読んだり書いたりすること。 ウ 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすること。
・まとまりのある英文や、 <u>身近な英語で書かれたチラシや手紙等の情報を読んで、適切な対応をすることができる。</u>	【設問数】 4問(程度) 【出題形式】 選択式 【出題数の割合】 コミュニケーション英語Ⅰ 3問 コミュニケーション英語Ⅱ 1問 【CEFR】 A1～A2程度		

(様式4)

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・与えられた情報を正しく読み取り、 <u>英語で描写したり、自分の意見を簡潔に英語で表現したりする</u> ことができる。	【設問数】 2問(程度) 【出題形式】 記述式 【出題数の割合】 コミュニケーション 英語Ⅰ 1問 コミュニケーション 英語Ⅱ 1問 【CEFR】 A1～A2 程度	書くこと	コミュニケーション英語Ⅰ 2 内容 (1) エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 (2) イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。 コミュニケーション英語Ⅱ 2 内容 (1) エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。 (2) イ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連などを考えながら読んだり書いたりすること。 エ 説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように話したり書いたりすること。

(様式4)

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ 日常的な話題や社会的な話題で、「やり取り」や「発表」<u>をすることができる。</u>	【設問数】4問～7問（程度） 【出題形式】スピーキング 【出題数の割合】義務教育範囲 3～5問（程度） コミュニケーション英語Ⅰ 1問～2問（程度） 【CEFR】A1～2程度 ※スピーキング試験は実施せず	話すこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) イ 話すこと （ア）強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ，正しく発音すること。 （イ）自分の考えや気持ち，事実などを聞き手に正しく伝えること。 （ウ）聞いたり読んだりしたことなどについて，問答したり意見を述べ合ったりなどすること。 コミュニケーション英語Ⅰ (1) イ 説明や物語などを読んで，情報や考えなどを理解したり，概要や要点をとらえたりする。また，聞き手に伝わるように音読する。 ウ 聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて，話し合ったり意見の交換をしたりする。 (2) ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴，話す速度，声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。

(様式5)

サンプル問題について

事業者名： 株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名： スタディープログラム 1年2回-2年1回

対象教科： 国語

測定内容の区分： 標準タイプ

サンプル問題番号： 1

出題科目	国語総合																										
出題のポイント	古典の文章（古文）について、描かれている人物、情景、心情及び展開、主題・要旨などを表現に即して読み取ることができる力を測定する。																										
主として問う能力	<table><tr><th>小問番号</th><th>知識・技能</th><th>思考力・判断力・表現力等</th></tr><tr><td>問一</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>問二</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>問三</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>問四</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>問五</td><td></td><td>○</td></tr></table>			小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	問一		○	問二		○	問三		○	問四		○	問五		○						
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																									
問一		○																									
問二		○																									
問三		○																									
問四		○																									
問五		○																									
出題形式	<table><tr><th>小問番号</th><th>選択式</th><th>短答式</th><th>記述式</th></tr><tr><td>問一</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>問二</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>問三</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>問四</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>問五</td><td>○</td><td></td><td></td></tr></table>			小問番号	選択式	短答式	記述式	問一	○			問二	○			問三	○			問四	○			問五	○		
小問番号	選択式	短答式	記述式																								
問一	○																										
問二	○																										
問三	○																										
問四	○																										
問五	○																										

古文・読解

この問題は、古文読解の方法とその内容把握について、学力を確認します。

大問番号 **5** 次の文章は『御伽物語』の一節である。ある晩、いたずら者の狸は侍の妻を驚かせたところ、思いがけず逆に妻に手を切り落とされてしまった。本文はそれに続く場面である。これを読んで、後の各問い（問一～五）に答えよ。

次の夜つま戸をたたくものあり。「たそ」とがむれば、「いやくるしからぬ。ゆふべ手を失ひし狸にて候ふ。はかなくも無用のこといたし、今さら迷惑に候ふ。御腹立ちはさることなれど、ひたすら許し給ひて、その手これへ下され候へかしとわびごとに参加候ふ」といふ。侍聞きて、「やおれ畜生の分に、女なりとて人をあなどる。いかで手をかへさん。よしまたかへすとも、一度きれはなれし手の、何の役にか立たん。とくかへれ、深きとがになれば、命は助くるぞ」といふ。狸聞いて、「いくへも御わびごと申すべし。また手さへ下され候へば、よき薬もちてつきはべり」

といふ。「さらばその薬をしへたらばとらせん」といふ。「やすきことなり」と。「その草この木などにて、かやうにあはす」と語りて、狸は手もらひてかへれり。その方今にあり。しるしままありてめでたき薬にてはべり。

(注) 1 つま戸——家の端にある、両開きの板戸。

2 くるしからぬ——誰かと聞かれたときの返事。怪しい者ではない。

3 やおれ——目下の者に呼びかける語。やい、おのれ。

問一 二重傍線部ア・イの動作主の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は

38。

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ① | ア | 狸 | イ | 侍 |
| ② | ア | 侍 | イ | 侍 |
| ③ | ア | 狸 | イ | 狸 |
| ④ | ア | 侍 | イ | 狸 |

問二 傍線部 A「は」は、今さら迷惑に候ふ」とあるが、ここで述べられた狸の心情の説明として最も

適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は

39。

- ① 悪気なく行っていたらずらであったが、侍の妻にけがを負わせたことはやりすぎであったと思い、深く反省している。
- ② 軽い気持ちで行っていたはずだったので、まさかやり返されて手を失うとは思ってもおらず、途方に暮れている。
- ③ いたずらをしておきながら今さら謝りに行っても、かえって侍夫婦に迷惑がられるのではないかと、心配している。
- ④ いたずらに対し、手を切り落とされてもたいしたことではないと思っていたが、今になって不便を感じて困っている。

問三 傍線部B「いかで手をかへさん」とあるが、侍がこのように

言った理由は何か。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は

40。

- ① 妻へ無礼を働いただけでも腹立たしいのに、謝りもせず手を返せとまで言ってくるのは厚かましいと思ったから。
- ② 狸に手を返してやりたいが切り離された手をつなげてやる方法がわからず、返してもしかたがないと思ったから。
- ③ 狸が妻にいたずらをしかけたことは大変腹立たしく、狸をこらしめるためにもただでは返すまいと思ったから。
- ④ いくら謝つても狸がいたずらしたことは許しがたく、また切り離された手など返しても無駄であろうと思ったから。

問四 傍線部C「語りて」とあるが、狸の語った内容の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は

41。

- ① 切り離された手をつなぐことのできる薬は、どのような草や木を混ぜて作るのかということ。
- ② 侍に、どのような草や木で薬を作るのか、採ってきて見せてやろうということ。
- ③ 自分は、どのような草や木から作った薬で、切り離された手をつないだのかということ。
- ④ どのような草や木から薬を作れば、あらゆる傷を自然にふさぐことができるのかということ。

問五 本文の内容に合致するものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 42。

- ① 侍は、手を取り戻しに来た狸に対し、いたずらの理由を問いただした。
- ② 侍は、狸が手をなくした以上、もういたずらはできないと考え、命は助けることにした。
- ③ 狸は、侍に薬の作り方を教えてあげるかわりに、手を返してもらったことができた。
- ④ 侍は、狸が手をつないだ薬の残りを今も持つており、時々役立てている。

解答例	問一 3 問二 2 問三 4 問四 1 問五 3
(参考)学習指導要領 の関連項目	国語総合 C 読むこと ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。 イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や記述をしたりすること。 ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] ア 伝統的な言語文化に関する事項 (ア) 言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げること。 イ 文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること。

(様式5)

サンプル問題について

事業者名：株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名：スタディープログラム 1年2回-2年1回

対象教科：国語

測定内容の区分：標準タイプ

サンプル問題番号：2

出題科目	国語総合																			
出題のポイント	複数の文章の内容を読み取り、その内容を比較したうえで、必要な情報を取り出したり、論拠を示しながら考えを説明したりすることができる力を測定する。																			
主として問う能力	<table><tr><th>小問番号</th><th>知識・技能</th><th>思考力・判断力・表現力等</th></tr><tr><td>問一</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>問二</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>問三</td><td></td><td>○</td></tr></table>				小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	問一		○	問二		○	問三		○				
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																		
問一		○																		
問二		○																		
問三		○																		
出題形式	<table><tr><th>小問番号</th><th>選択式</th><th>短答式</th><th>記述式</th></tr><tr><td>問一</td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>問二</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>問三</td><td></td><td></td><td>○</td></tr></table>				小問番号	選択式	短答式	記述式	問一			○	問二	○			問三			○
小問番号	選択式	短答式	記述式																	
問一			○																	
問二	○																			
問三			○																	

サンプル問題

国語の解答時間は20分です。早く終わっても他の教科の解答をしてはいけません。

1

図書委員会では、読書週間を行うための話し合いを行うことになった。次に示すものは、話し合いの前に図書委員に配られた『読書週間の計画書』の一部と、読書週間で行うイベントについての提案が記された『イベントについて』である。それに続く『話し合い』と合わせて読み、後の各問に答えよ。

『読書週間の計画書』

読書週間について

四月二十三日配付

内容

- ・図書委員長より
- ・係の仕事について
- 1 係の仕事
- 2 係の仕事の振り分け
- ・イベントについて（別紙プリント参照）

図書委員長より

三年二組 高橋 明

五月二十五日より六月一日までの一週間、毎年恒例の読書週間を今年も行うことになりました。近年、若者の活字離れが進

んでいると指摘されています。しかし、我が校では開校以来、図書委員会が「読書を通して健全な精神を養う」という目標を掲げ読書週間を続けてきた結果、昨年度の図書館からの本の貸出冊数は前年度比で2割増えました。このことは、読書に親しむ生徒が増えていることを示していると言えます。

しかし一方で、図書委員会が実施したアンケートでは、1か月に1冊も本を読まない生徒がまだまだ多いことがわかりました。そこで、今年は、そういった普段読書をしない人にどうしたら本に興味をもってもらえるかということを主眼として開催したいと考えています。高校生のうちに読書する習慣を身につけることができれば、卒業後の長い人生で読書を通して自分の世界を広げていくことができるはずです。社会に出てわからないことがあっても、本を通して学ぶことができます。このことを念頭に置いて今年の読書週間について話し合いをしましょう。一年生は、図書委員になってまだ一週間なので慣れないことも多いと思いますが、みんな一丸となって読書週間を成功させましょう。

係の仕事について

読書週間までの準備期間の係は以下のようにする。

1. 係の仕事

- ・「図書だより」制作係

読書週間を告知するために、通常の「図書だより」では

なく、「図書だより」の特別号を作成する。開催期間やイベントに関する細かい情報などを載せるだけでなく、読書に関する調査結果や読書週間の目的なども掲載する。

・ポスター制作係

読書週間を告知するためのポスターを作成し、校内に掲示する。開催期間やイベントの内容などを視覚的にわかりやすく作成する。

・イベント準備係

イベントの内容については、全体の話し合いで決定し、その後、具体的な計画を立て、準備を進める。

・通常の図書委員会の仕事の担当

図書室の本の整理や貸出業務など、通常の図書委員会の業務を行う。基本的に一年生が担当するものとする。通常は午前の授業終了後から午後の始業まで二人で行っているが、準備期間は一人で行う。放課後の貸出業務は通常通り二人体制で行うが、通常は一人につき週二回担当のところ、準備期間中は人数が不足するため週三回担当する。

2. 係の仕事の振り分け

イベントの内容について、本日決定した後、係の振り分けを行う。前述の通り、通常業務は一年生が担当するので、二、三年生がそれぞれ希望する係を申し出、振り分け人数より多

い場合は抽選で係を決定する。決定後、係の作業の開始は、読書週間二週間前の五月十一日からとする。

【イベントについて】

●提出された案

案A 本のパンフレットを作成する

図書委員が推薦する本を紹介する文章を一冊のパンフレットにまとめて配り、本に興味をもってもらう。あらすじだけではなく、作者の生い立ちを写真なども使って説明するなど、多面的に本の魅力を伝える。

案B 読書感想文コンテスト

読書感想文を全員に提出してもらう。課題図書を決めると、普段は本を読まない人でも取り組みやすいと思うので、課題図書を事前に決めて発表しておく。課題図書は読書に慣れていない人のため、短めのものにする。

案C 本の紹介コーナーの設置

本のあらすじを紹介するコーナーを図書室に設ける。イラストや参考になる写真なども添えて、内容に興味をもってもらえるような工夫をする。内容を膨らませるため、本を読んだ人が感想を書き込めるスペースも用意する。

案D アニメ・漫画コーナーの設置

人気のあるアニメに関する資料や原作となった漫画などを自由に読めるコーナーを設置する。キャラクターのイラストなども展示して、アニメや漫画が好きの人が図書室に来るきっかけを作り、徐々に読書に興味をもってもらう。

【話し合い】

司会 続いてイベントについて話し合います。配付した『イベントについて』のプリントの具体的な案について話す前に、どのようなことを目標にしてイベントを行うべきかということについて話し合いたいと思います。何か意見のある人はいますか。

鈴木 私の周囲の人たちに話を聞くと、どの本を選んだらよいかわからないから本に手を出しにくいという人がいます。おそらく同じように考えている人も多いのではないのでしょうか。そこで、読書をしていない人たちに向けて、読む本を選ぶための助けとなるようなイベントを行うとよいと思います。

司会 普段読書をしていない人が本を選ぶ助けになるイベントがよいということですね。ほかに意見がある人はいますか。

高橋 鈴木さんの言うような普段は読書をしていない人たちには、読書以前に活字を読むこと自体が苦手だという人も多いように思います。そういう人たちも興味をもてるような方法がある

とよいと思います。

山田 活字を読むのが苦手なら、もっと視覚的に本の内容がわかるようなものにすればよいのではないのでしょうか。

高橋 そうですね。その方向性の活動がよいと思います。

司会 高橋さんと山田さんの意見をまとめると、活字を読むのが苦手な人にも興味をもってもらえるように視覚的に本の内容がわかるようなものにする、ということですね。ほかにはどうですか。

佐藤 やはりなるべく多くの人に参加してもらいたいのです。そのためには、今まで皆さんが話し合っていた読書をしていない人たちに向けたものではなく、読書が好きだという人も何らかの形で参加できる形式のイベントがよいと思います。

高橋 賛成です。そうすれば読書が好きな人、読書をしていない人の両方に参加してもらえますね。

司会 以上でだいたい意見は出尽くしましたね。それでは、『イベントについて』に挙げられているA～Dの提案について、どれがよいでしょうか。意見を出してください。

鈴木 はい。私は案()がよいと思います。なぜなら案()

は、
ので、みんなの意見すべてを満たしていると思うからです。

(話し合いは続く)

問一 【読書週間の計画書】の図書委員長よりの傍線部「昨年度の図書館からの本の貸出冊数は前年度比で2割増えました。このことは、読書に親しむ生徒が増えていることを示していると言えます」について、ある委員から次のような指摘を受けた。次の文の空欄に当てはまる内容を二十五字以内で書け。

1

全体での読書冊数が増えていたとしても、ので、読書に親しむ生徒が増えたとは言い切れないのではないか。

問二 【読書週間の計画書】の係の仕事について 対して図書委員から問題点の指摘と改善案の提案がなされた。その内容において計画を実行する上で実現が難しいものを、次の1～4のうちから一つ選び、番号で答えよ。

2

- 1 一年生だけで通常業務を行うのはまだ難しいので、上級生が交代で助けるべきではないか。
- 2 昼食をとる時間が確保できないので、昼の通常業務は前半と後半の交代制にすべきではないか。
- 3 係の振り分けでは抽選を行わず、誰もが希望する係の仕事を担当することにすべきではないか。
- 4 作業開始日を一定にせず、先に行うべき作業と後から行う作業で開始日を分けるべきではないか。

問三 【話し合い】の について、ここで鈴木さんは何と述べたと考えられるか。鈴木さんが「よい」と思っ
て選んだ提案を案A～Dの中から一つ選び、次の〈条件〉①～③を満たすように書け。
 3

〈条件〉

- ① 適切な案をA～Dのうちから一つ選ぶこと。
- ② 【イベントについて】と【話し合い】の内容をもとに鈴木さんの発言内容を考えて書くこと。
- ③ 五十字以上、七十字以内で書くこと。

解答例	問一（例）限られた生徒が多くの本を読んでいる可能性がある（23 字） 問二 3 問三（選択）C （例）読書が好きな人も本の感想を書き込むことで参加でき、活字が苦手な人にもイラストや写真で視覚的に内容を伝えられ、また、本を選ぶ助けにもなる（67 字） 【採点のポイント】 「読書が好きな人も本の感想を書き込むことで参加できる」／「活字が苦手な人にもイラストや写真で視覚的に内容を伝えられる」／「本を選ぶ助けにもなる」という内容が書けていること。
（参考）学習指導要領の関連項目	国語総合 B 書くこと イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。 ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。 C 読むこと ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。 イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。 オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。

(様式 5)

サンプル問題について

事業者名:株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名:スタディープログラム 1 年 2 回-2 年 1 回

対象教科:数学

測定内容の区分:標準タイプ

サンプル問題番号:1

出題科目	数学 I																							
出題の ポイント	習得した数学の知識・技能を活用できるかを測定する。																							
主として 問う能力	<table><tr><td>番号</td><td>知識・技能</td><td colspan="2">思考力・判断力・表現力等</td></tr><tr><td>(2)</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>(3)</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>(5)</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>(6)</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr></table>				番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		(2)	○			(3)	○			(5)	○			(6)	○		
番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																						
(2)	○																							
(3)	○																							
(5)	○																							
(6)	○																							
出題形式	<table><tr><td>番号</td><td>選択式</td><td>短答式</td><td>記述式</td></tr><tr><td>(2)</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>(3)</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>(5)</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>(6)</td><td>○</td><td></td><td></td></tr></table>				番号	選択式	短答式	記述式	(2)	○			(3)	○			(5)	○			(6)	○		
番号	選択式	短答式	記述式																					
(2)	○																							
(3)	○																							
(5)	○																							
(6)	○																							
サンプル 問題	(2) $x^2+16x+64-49y^2=(x+\boxed{\text{ア}}y+\boxed{\text{イ}})(x-\boxed{\text{ウ}}y+\boxed{\text{エ}})$ である。 (3) $x=\sqrt{3}+2\sqrt{2}$, $y=\sqrt{3}-2\sqrt{2}$ のとき, $x^2-xy+y^2=\boxed{\text{オカ}}$ である。 (5) $(\sqrt{6}+\sqrt{3}+2)(\sqrt{6}-\sqrt{3}+2)=\boxed{\text{キ}}+\boxed{\text{ク}}\sqrt{\boxed{\text{ケ}}}$ である。 (6) ある整数 x を 3 倍した数に, x から 5 を引いて 8 倍した数を加えた数が, 0 以上 50 以下であるような整数 x は全部で $\boxed{\text{コ}}$ 個ある。																							

解答例	(2) 因数分解 (数と式) $\begin{aligned} &x^2+16x+64-49y^2 \\ &= (x+8)^2-(7y)^2 \\ &= (x+8+7y)(x+8-7y) \\ &= (x+7y+8)(x-7y+8) \end{aligned}$ (3) 対称式の計算 (数と式) $\begin{aligned} x+y &= (\sqrt{3}+2\sqrt{2})+(\sqrt{3}-2\sqrt{2}) \\ &= 2\sqrt{3} \\ xy &= (\sqrt{3}+2\sqrt{2})(\sqrt{3}-2\sqrt{2}) \\ &= (\sqrt{3})^2-(2\sqrt{2})^2 \\ &= 3-8 \\ &= -5 \end{aligned}$ よって $\begin{aligned} x^2-xy+y^2 &= (x+y)^2-3xy \\ &= (2\sqrt{3})^2-3\cdot(-5) \\ &= 12+15=27 \end{aligned}$ (5) 無理数の計算 (数と式) $\begin{aligned} &(\sqrt{6}+\sqrt{3}+2)(\sqrt{6}-\sqrt{3}+2) \\ &= \{(\sqrt{6}+2)+\sqrt{3}\}\{(\sqrt{6}+2)-\sqrt{3}\} \\ &= (\sqrt{6}+2)^2-(\sqrt{3})^2 \\ &= (\sqrt{6})^2+2\cdot\sqrt{6}\cdot 2+2^2-3 \\ &= 7+4\sqrt{6} \end{aligned}$ (6) 1次不等式 (数と式) $\begin{aligned} 0 &\leq 3x+8(x-5) \leq 50 \\ 0 &\leq 11x-40 \leq 50 \\ 40 &\leq 11x \leq 90 \\ \frac{40}{11} &\leq x \leq \frac{90}{11} \end{aligned}$ ここで, $\frac{40}{11}=3.63\cdots$, $\frac{90}{11}=8.18\cdots$ であるから, これを満たす整数 x は, 4, 5, 6, 7, 8 の全部で5個ある。	◀$x+8=A$, $7y=B$とおくと, A^2-B^2の形になっている。 ◀x^2-xy+y^2を和 $x+y$ と積 xy だけで表す。 $x^2+y^2=(x+y)^2-2xy$ ◀$A=\sqrt{6}+2$, $B=\sqrt{3}$とおく と,$(A+B)(A-B)$の形になっ ている。 ◀$A\leq B$ならば $A+C\leq B+C$ であるから, $0+40\leq 11x-40+40\leq 50+40$
(参考)学 習指導要 領の関連 項目	(2), (3), (5) 数学 I イ 式 (ア) 式の展開と因数分解 二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深め, 式を多面的にみたり目的に応じ て式を適切に変形したりすること。 (6) 数学 I イ 式 (イ) 一次不等式 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し, 一次不等式の解を求めたり一次 不等式を事象の考察に活用したりすること。	

サンプル問題について

事業者名:株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名:スタディープログラム 1年2回-2年1回

対象教科:数学

測定内容の区分:標準タイプ

サンプル問題番号:2

出題科目	数学 I																					
出題のポイント	日常的な事象において、複数の条件から新たな数式をつくり、思考プロセスを説明し課題を解決する力を測定する。																					
主として問う能力	<table><tr><td>番号</td><td>知識・技能</td><td colspan="2">思考力・判断力・表現力等</td></tr><tr><td>問 1</td><td></td><td colspan="2">○</td></tr><tr><td>問 2</td><td></td><td colspan="2">○</td></tr><tr><td>問 3</td><td></td><td colspan="2">○</td></tr></table>				番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		問 1		○		問 2		○		問 3		○			
番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																				
問 1		○																				
問 2		○																				
問 3		○																				
出題形式	<table><tr><td>番号</td><td>選択式</td><td>短答式</td><td>記述式</td></tr><tr><td>問 1</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>問 2</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>問 3</td><td></td><td></td><td>○</td></tr></table>				番号	選択式	短答式	記述式	問 1		○		問 2	○			問 3			○		
番号	選択式	短答式	記述式																			
問 1		○																				
問 2	○																					
問 3			○																			
サンプル問題	恭平さんが住んでいる地域では、毎年 10 月に釣り大会が開催され、記念のキャップが販売されている。キャップ販売の担当として、恭平さんはボランティアとして参加することにした。販売担当の係の中で過去の販売価格とキャップの販売数のデータをもとに価格設定を話し合うことになった。  <table><tr><td></td><td>販売価格(円)</td><td>販売数(個)</td></tr><tr><td>5 年前</td><td>1000</td><td>158</td></tr><tr><td>4 年前</td><td>1300</td><td>134</td></tr><tr><td>3 年前</td><td>1500</td><td>120</td></tr><tr><td>2 年前</td><td>1100</td><td>151</td></tr><tr><td>昨年</td><td>1000</td><td>161</td></tr></table> 恭平さんは、この表を見て 『1000 円では 160 個売れ、販売価格を 100 円上げると、販売数が 8 個ずつ減るのではないかと考え、キャップの販売価格を x(円)、キャップの販売数を y(個)として販売数を $y = -\frac{2}{25}x + 240$ と表し、y は x の 1 次関数になると仮定して、販売価格を検討していくことになった。 問 1 売上総額を z(円) とするとき、z を x の式で表せ。					販売価格(円)	販売数(個)	5 年前	1000	158	4 年前	1300	134	3 年前	1500	120	2 年前	1100	151	昨年	1000	161
	販売価格(円)	販売数(個)																				
5 年前	1000	158																				
4 年前	1300	134																				
3 年前	1500	120																				
2 年前	1100	151																				
昨年	1000	161																				

問2

話し合いの中で、5年前より以前に1000円で販売した際には140個しか売れなかったことがわかり

「1000円では140個売れ、販売価格を100円上げると、販売数が8個ずつ減る」という考えで、販売数を仮定して検討した方がよいのではないかという意見が出た。

恭平さんの仮定と同様に、販売数は販売価格の1次関数になると仮定すると

$$y = -\frac{2}{25}x + 220$$

と表すことができる。この新しい仮定では、恭平さんの仮定と比べると、売上総額が最大になるキャップの販売価格と、そのときの売上総額はどのように変化するか。次の1～7のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 売上総額が最大になる販売価格は上がり、売上総額は増える。
- 2 売上総額が最大になる販売価格は上がり、売上総額は減る。
- 3 売上総額が最大になる販売価格は上がり、売上総額は変わらない。
- 4 売上総額が最大になる販売価格は下がり、売上総額は増える。
- 5 売上総額が最大になる販売価格は下がり、売上総額は減る。
- 6 売上総額が最大になる販売価格は下がり、売上総額は変わらない。
- 7 売上総額が最大になる販売価格は変わらず、売上総額も変わらない。

問3

恭平さんの仮定のもとで販売したときの利益を考えていくことにした。キャップを制作する費用については下記の表のとおり、「デザイン料」と「キャップ本体＋プリント代」の2つがあるものとし、売上総額からかかった費用を引いたものを利益とする。

デザイン料	1200円
キャップ本体＋プリント代	1個につき900円

すべてを売り切るつもりでキャップを制作する。キャップの販売価格を x (円)、利益を p (円)とすると、 p を x の式で表し、利益が最大となるキャップの販売価格を求めよ。その理由も説明せよ。

解答例

問1

キャップの売上総額は、キャップの販売価格と販売数の積であるから $z = xy = x\left(-\frac{2}{25}x + 240\right)$

問2

仮定④での売上総額が最大になる x の値を考える。問1より

$$z = x\left(-\frac{2}{25}x + 240\right) \cdots \textcircled{1}$$

この2次関数①が最大となるような x の値を求めればよい。 $z = 0$ のときの x の値は、 $x = 0$ 、3000より、2次関数①のグラフの軸は直線 $x = 1500$ となる。よって、 $0 < x < 3000$ より $x = 1500$ のとき z は最大となる。そのときの z の値は

$$z = 1500\left(-\frac{2}{25} \times 1500 + 240\right) = 1500 \times 120 = 180000$$

となる。

次に

『1000円では140個売れ、販売価格を100円上げると、販売数が8個ずつ減る』…⑤

この仮定⑤についての売上総額が最大になる x の値を仮定④と同様に考える。仮定⑤における売上総額を z' (円) とすると

$$z' = x\left(-\frac{2}{25}x + 220\right) \cdots \textcircled{2}$$

となり、この2次関数②が最大となるような x の値を考える。まず、 $x > 0$ 、 $-\frac{2}{25}x + 220 > 0$ より、

$$0 < x < 2750$$

$z' = 0$ のときの x の値は、 $x = 0$ 、2750より、2次関数②のグラフの軸は直線 $x = 1375$ となる。よって、 $0 < x < 2750$ より $x = 1375$ のとき z' は最大となる。そのときの z' の値は

$$z' = 1375\left(-\frac{2}{25} \times 1375 + 220\right) = 1375 \times 110 = 151250$$

となる。

これより、仮定⑤の場合を、仮定④の場合と比較すると

「売上総額が最大になる販売価格は下がり、売上総額は減る。」

となり答えは5である。

$$\blacktriangleleft (\text{売上総額}) = (\text{販売価格}) \times (\text{販売数})$$

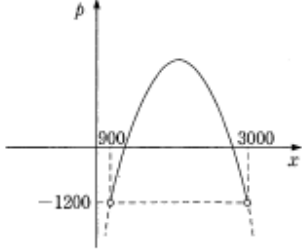
$$\blacktriangleleft x\left(-\frac{2}{25}x + 240\right) = 0 \quad (0 < x < 3000)$$

を解いた値。

※式を展開し、平方完成して、グラフの頂点の座標を求めてもよいが、実際の場面では、数値が大きくなるので、計算が煩雑になる。グラフの性質などを利用して、計算の工夫を行いたい。

◀①では(仮定④) $x = 1500$ のとき最大値は180000

②では(仮定⑤) $x = 1375$ のとき最大値は151250となる。

	【別解】 売上総額は(販売価格)×(販売数)で表すことができるので $z = x(ax + b)$として表すと $z = ax^2 + bx = a\left(x^2 + \frac{b}{a}x\right) = a\left(x + \frac{b}{2a}\right)^2 - \frac{b^2}{4a}$となり、仮定④、⑤ともに $a < 0$ であるから、売上総額が最大となる x の値を s、そのときの売上総額を t とすると $s = -\frac{b}{2a}$、$t = -\frac{b^2}{4a}$ である。 次に、仮定④、⑤の場合の a と b の値をそれぞれ比較すると、a については (仮定④) = (仮定⑤) となり、b については (仮定④) > (仮定⑤) となる。以上より $s : (仮定④) > (仮定⑤)$ $t : (仮定④) > (仮定⑤)$ となる。よって、 「売上総額が最大になる販売価格は下がり、売上総額は減る。」 となり答えは5である。 問3 条件より $p = xy - 900y - 1200$$= (x - 900)y - 1200$$= (x - 900)\left(-\frac{2}{25}x + 240\right) - 1200 \dots ③$と表されるので、$p$ は x の2次関数である。ここで、2次関数のグラフの対称性を利用すると、2次関数③のグラフの軸は直線 $x = \frac{900 + 3000}{2} = 1950$となる。よって、$0 < x < 3000$ より $x = 1950$ のとき p は最大となる。よって利益が最大となるキャップの販売価格は1950円である。p の最大値は $p = 1050\left(-\frac{2}{25} \times 1950 + 240\right) - 1200 = 1050 \times 84 - 1200$$= 87000$となる。	◀ y (販売数) を $y = ax + b$ として考えている。 ◀ 仮定④では $a = -\frac{2}{25}$、$b = 240$ 仮定⑤では $a = -\frac{2}{25}$、$b = 220$ である。 ◀ 仮定④、⑤のときの b の値をそれぞれ b' と b'' とすると、$a < 0$ より $-\frac{b'}{2a} > -\frac{b''}{2a}$ $-\frac{b'^2}{4a} > -\frac{b''^2}{4a}$ となる。 ◀ y は販売数なので、1個ごとにかかる費用は $900y$ と表すことができる。 ◀ 2次関数③は $x = 900$、または $x = 3000$ のときに $p = -1200$ となる。 x^2 の係数が負なので、グラフの概形は下のようになる。  2次関数のグラフの対称性からこのグラフの軸は、900と3000の中央にあることがわかる。
(参考)学習指導要領の関連項目	数学 I ア 二次関数とそのグラフ 事象から二次関数で表される関係を見いだすこと。また、二次関数のグラフの特徴について理解すること。 イ 二次関数の値の変化 (ア) 二次関数の最大・最小 二次関数の値の変化について、グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりすること。 〔課題学習〕 (1)、(2)、(3)及び(4)の内容又はそれらを相互に関連付けた内容を生活と関連付けたり発展させたりするなどして、生徒の関心や意欲を高める課題を設け、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識できるようにする。	

サンプル問題について

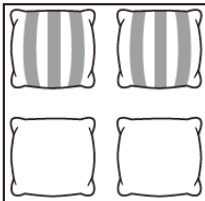
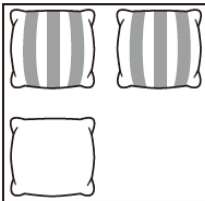
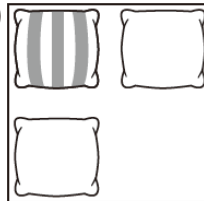
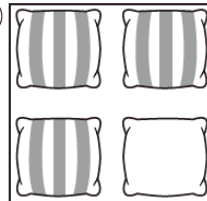
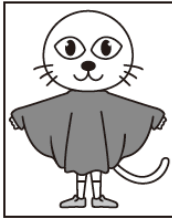
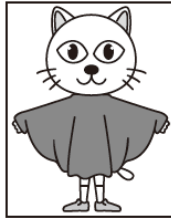
事業者名:株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名:スタディープログラム 1年2回-2年1回

対象教科:英語

測定内容の区分:標準タイプ

サンプル問題番号:1

出題科目	コミュニケーション英語 I																		
出題のポイント	放送文を聞いて、音声での描写を正しく理解できているかを測定する。																		
主として問う能力	<table><tr><td>小問番号</td><td>知識・技能</td><td colspan="2">思考力・判断力・表現力等</td></tr><tr><td>(1)</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>(2)</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr></table>				小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		(1)	○			(2)	○					
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																	
(1)	○																		
(2)	○																		
出題形式	<table><tr><td>小問番号</td><td>選択式</td><td>短答式</td><td>記述式</td></tr><tr><td>(1)</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>(2)</td><td>○</td><td></td><td></td></tr></table>				小問番号	選択式	短答式	記述式	(1)	○			(2)	○					
小問番号	選択式	短答式	記述式																
(1)	○																		
(2)	○																		
主として問う技能 (英語のみ)	<table><tr><td>小問番号</td><td>聞く</td><td>読む</td><td>話す</td><td>書く</td></tr><tr><td>(1)</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>(2)</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				小問番号	聞く	読む	話す	書く	(1)	○				(2)	○			
小問番号	聞く	読む	話す	書く															
(1)	○																		
(2)	○																		
サンプル問題	それぞれの問いについて英文を聞き、答えとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つずつ選べ。なお、英文は一回ずつ読まれる。 (1) Which picture shows the cushions the speaker got ? ① ② ③ ④ (2) Which is the costume the speaker made ? ① ② ③ ④ 【放送文】 (1) I was going to buy two cushions. But there was a special offer of getting another one for free when you buy three. So I did that. Two cushions have the striped design which I had already decided on. For the others I chose plain white. (2) I made a costume for Halloween. It's a combination of a bird and a cat. It has big wings and a short tail. At first, I designed ears like a cat, but didn't make them because they didn't suit the mask. The mask is a bird with big eyes.																		

解答例	(1) ① (2) ③ 途中の情報変更に惑わされず、放送文の内容を最後まで正確に聞き取れるかがポイント。
(参考)学 習指導要 領の関連 項目	コミュニケーション英語 I 2 内容 (1) ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

サンプル問題について

事業者名:株式会社ベネッセコーポレーション
 測定ツール名:スタディープログラム 1年2回-2年1回
 対象教科:英語
 測定内容の区分:標準タイプ
 サンプル問題番号:2

出題科目	中学校学習指導要領 外国語、コミュニケーション英語 I																		
出題のポイント	ある程度の長さの会話文を読み、状況や会話の流れが理解できているかを測定する。																		
主として問う能力	<table><tr><td>小問番号</td><td>知識・技能</td><td colspan="2">思考力・判断力・表現力等</td></tr><tr><td>(1)</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>(2)</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr></table>				小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		(1)	○			(2)	○					
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																	
(1)	○																		
(2)	○																		
出題形式	<table><tr><td>小問番号</td><td>選択式</td><td>短答式</td><td>記述式</td></tr><tr><td>(1)</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>(2)</td><td>○</td><td></td><td></td></tr></table>				小問番号	選択式	短答式	記述式	(1)	○			(2)	○					
小問番号	選択式	短答式	記述式																
(1)	○																		
(2)	○																		
主として問う技能 (英語のみ)	<table><tr><td>小問番号</td><td>聞く</td><td>読む</td><td>話す</td><td>書く</td></tr><tr><td>(1)</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>(2)</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr></table>				小問番号	聞く	読む	話す	書く	(1)		○			(2)		○		
小問番号	聞く	読む	話す	書く															
(1)		○																	
(2)		○																	
サンプル問題	次の会話文中の空所に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の 1 ～ 4 のうちから一つずつ選び、番号で答えよ。 (1) Shota : Hey, I need your help. Allison : What can I do for you ? Shota : I'll be absent from class tomorrow. () Allison : I don't take detailed ones. Is that okay ? Shota : Hmm. Maybe I should ask Liz. 1 Can I borrow your notes when I get back ? 2 What's going to happen ? 3 Where will you be ? 4 Will you tell the teacher ? (2) Kota : Did my dog just run through here ? Lily : A dog did run through here a few seconds ago. Kota : () Lily : She went that way, so I think she's heading for the barbecue in the park. Kota : Of course ! She loves the smell of meat. 1 Do you know which way she went ? 2 Do you like dogs ? 3 How many dogs went there ? 4 What kind of dog did you see ?																		
解答例	(1) 1 (2) 1 会話の前後の文脈から、最適な発言を選択できるかがポイント。																		

(参考)学 習指導要 領の関連 項目	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) ウ 読むこと (ア) 文字や符号を識別し，正しく読むこと。 (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり，その内容が表現されるように音読すること。 (ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。 コミュニケーション英語Ⅰ (1) イ 説明や物語などを読んで，情報や考えなどを理解したり，概要や要点をとらえたりする。また，聞き手に伝わるように音読する
---------------------------------------	--

サンプル問題について

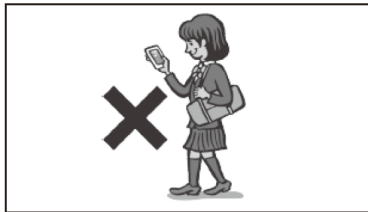
事業者名:株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名:スタディープログラム 1年2回-2年1回

対象教科:英語

測定内容の区分:標準タイプ

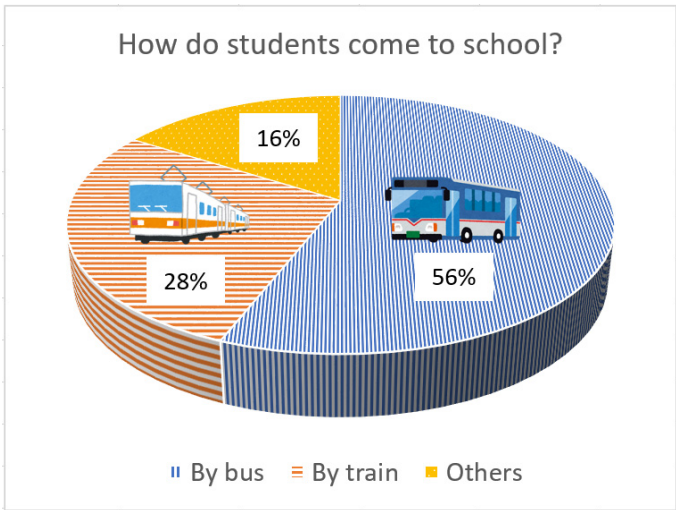
サンプル問題番号:3

出題科目	中学校学習指導要領 外国語																		
出題のポイント	図の情報を読み取り、内容を適切に表現できるかを測定する。																		
主として問う能力	<table><tr><td>小問番号</td><td>知識・技能</td><td colspan="2">思考力・判断力・表現力等</td></tr><tr><td>(1)</td><td></td><td colspan="2">○</td></tr><tr><td>(2)</td><td></td><td colspan="2">○</td></tr></table>				小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		(1)		○		(2)		○				
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																	
(1)		○																	
(2)		○																	
出題形式	<table><tr><td>小問番号</td><td>選択式</td><td>短答式</td><td>記述式</td></tr><tr><td>(1)</td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>(2)</td><td></td><td></td><td>○</td></tr></table>				小問番号	選択式	短答式	記述式	(1)			○	(2)			○			
小問番号	選択式	短答式	記述式																
(1)			○																
(2)			○																
主として問う技能（英語のみ）	<table><tr><td>小問番号</td><td>聞く</td><td>読む</td><td>話す</td><td>書く</td></tr><tr><td>(1)</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>(2)</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr></table>				小問番号	聞く	読む	話す	書く	(1)				○	(2)				○
小問番号	聞く	読む	話す	書く															
(1)				○															
(2)				○															
サンプル問題	次のイラストは、マナーに関するポスターです。空所 X、Y にそれぞれ 5 語程度の英語を補い、ポスターを完成させなさい。 (1)  (X) while you are outside. (2)  (Y) while you are walking.																		
解答例	(1) X : Do not throw away the garbage (while you are outside.) (2) Y : Do not use your mobile phone (while you are walking.) 図に書いてある情報を読み取り、適切な説明ができるかがポイント。																		

(参考)学習指導要領の関連項目	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) エ 書くこと (ア) 文字や符号を識別し，語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。 (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。 (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり，感想，賛否やその理由を書いたりなどすること。 (エ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて，自分の考えや気持ちなどを書くこと。
------------------------	--

サンプル問題について

事業者名:株式会社ベネッセコーポレーション
 測定ツール名:スタディープログラム 1年2回-2年1回
 対象教科:英語
 測定内容の区分:標準タイプ
 サンプル問題番号:4

出題科目	コミュニケーション英語Ⅰ													
出題のポイント	身近なテーマで、第三者について扱った図や表に関して、聞き手にその内容が伝わるように「発表」することができるかを測定する。													
主として問う能力	<table><tr><td>小問番号</td><td>知識・技能</td><td colspan="2">思考力・判断力・表現力等</td></tr><tr><td>—</td><td></td><td colspan="2">○</td></tr></table>				小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		—		○			
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等												
—		○												
出題形式	<table><tr><td>小問番号</td><td>選択式</td><td>短答式</td><td>記述式</td></tr><tr><td>—</td><td></td><td></td><td>○</td></tr></table>				小問番号	選択式	短答式	記述式	—			○		
小問番号	選択式	短答式	記述式											
—			○											
主として問う技能（英語のみ）	<table><tr><td>小問番号</td><td>聞く</td><td>読む</td><td>話す</td><td>書く</td></tr><tr><td>—</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr></table>				小問番号	聞く	読む	話す	書く	—			○	
小問番号	聞く	読む	話す	書く										
—			○											
サンプル問題	（下記の問題は、「話すこと」（発表）に関する問題サンプルです。実際には、受検する生徒の学力レベルや実施時期に考慮した内容・難易度での出題を予定しています。） 以下の円グラフは、「学校にどのような交通手段で来ているか」をある学校で調査した結果を示している。あなたはこの円グラフについて、説明することになった。まずは30秒間で内容を確認しなさい。その後、何が示されているかを英語で説明しなさい。 How do students come to school?  ■ By bus ■ By train ■ Others													
解答例	解答例：At this school, students come to school more by bus than train. 解説：グラフの特徴を読み取り、英語で正確に表現する力を測る問題。「電車通学よりもバス通学の方が多い」の他にも、「ほとんどがバスか電車で通学している」など、解答パターンは様々であるが、内容が矛盾しないよう、「誰が」「何を」「どうやって」「どうする」といった要素を明確してから発表するとよい。													

(参考)学 習指導要 領の関連 項目	コミュニケーション英語 I 2 内容 (1) イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 (2) ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。
---------------------------------------	---